野津原方言集

続編

5

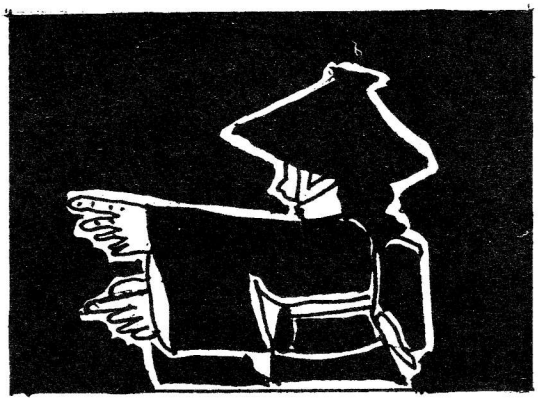
はじめに

続編№５は　平成４年調査に取り組んで以来　『３セット』　続編５冊、小、中学生向けの『やさしい方言ガイド』２冊の計　１０冊目の発行となりました。

多くの皆様の物心両面からのご支援と　調査資料のご協力でこの号を　迎える事が出来ました。調査員一同はこの上ない機会に　恵まれた幸せを満喫しています。誠に有り難うございました。

平成１５年の方言集大成　『野津原方言単語１２０００語』　は時『町政施行４５周年記念』　に合わせて発行の予定にしています。現在編集とプリンターを急いでいます。素人集団がすべて手作りで《調査　収拾　編集印刷　監修　製本》　取り組む浅学非才な冊子ですが　多くの皆様に愛読を頂き身に余る　光栄と感謝申しあげます。

今回も既刊と共通しますが　重複した単語や使ってはいけない差別用語　卑下する言い回しなどもありますが　方言集の性格上ご容赦お願い申します。また『方言単語集大成１２０００語』は　これから先この種の調査研究される　皆様のお役に立てば何よりも有難い事と念じて準備を急いでいます。製本などで意にそぐわぬ不手際などもありますが調査員がボランティアで取り組んだ　冊子ですので何とどご容赦の程懇願申します。



発行にあたり格別なご支援ご協力頂いた　皆様に衷心より厚くお礼を申し上げて　発行のご案内と致します。

平成１４年８月吉日

野津原方言集　《続編№５》

題字……田口　勲
表紙画……佐藤憲博
タイトル画……松本英明
カット……那須政子

★　ご協力の皆さん　渡部之夫、川西哲男、田崎奈良熊、
首藤チエ、那須茂都女、故…加藤正人。

★　参考資料　大分県方言集成《渡部之夫》。朝霧《首藤チエ》。
大分県方言集成補遺《渡部之夫》。
野津原文化財こぼればなし《石原美希》。

★　協力　野津原町教育委員会。練ヶ迫供養踊り保存会。
中部小学校竹刀踊り調査グループ。野津原記録保存会。
野津原町文化協会放送部会。大分なつメロを楽しむ会。

……

企画……野津原方言調査会　《会長　甲斐英行》
方言調査収拾……甲斐英行　佐藤吉晴　小野寿祐　那須政子
赤星ヨシミ　佐藤源治
編集　構成……佐藤吉晴　那須政子　赤星ヨシミ
プリンター……佐藤源治　小野寿祐
監修　印刷……小野寿祐
発行……野津原方言調査会
野津原町今市☎０９７＝５８９＝２８０７
事務局……☎０９７＝５８８＝００９２

No.5　もくじ

はじめに……1
タイトル　協力者……2
もくじ……3

五助馬子歌街道物語

往還田の菜の花……6
一の瀬渡しの猫柳……7
鈴が滝に映える山桜……9
のろし台にエビネの花…10
秋葉越えれば……12
諏訪の里には……13
三国峠のカンナ……15
早霧峠の白ゆり……
アオにナデシコ……18
野菊の向こうは里の山…19
柿が赤ぅなりゃ……21
明日は早や発ち……22
梅はまだかい……23
あん娘とし頃……24

古い唄　新しい歌

亥の子唄……28
寒餅焼く頃……30
田植え終わりぬ……
山村暮らし……31
岩清水　春雨の歌……
烏の家族　秋風立てば…32
夢見坂……33
西国巡礼歌　田植え歌…34
書生さん　てまり唄……35
ゴンザ口説き……
さるまる太夫……37

ちょつといっぷく

江戸期の生活経済……40
石だたみ周辺……41
シイタケ今昔……42
ぼけたらあかん……
50年前の名言名句……43
もろもろん話……44

子供ん方言文化

子供ん調べた竹刀踊り…46
子供ん懐かしい菓子……49
トイモアメ　アラレ……51
露店の子供ん菓子……52

女性の底力

カット100コマ……54
恵まれた放送……
2キロん米買い……56
歌づくり50年……57
ちぎり絵……58
礼儀正しい姿……59
イドラ咲く……61

盆おどり……62
口説き唄……63
女性の底力　あとがき…64

方言単語

単語あれこれ……65

新しい歌　古い唄

新野津原音頭……72
高原ふれあいまつり……
雨恋音頭……73
二の瀬の秋……74
農村後家一代　残の命…75

伝承　民話

丹生山　寝ござ打ち……81
大水で引き上げた軍……83
イモリ　ヤモリ……84
能登かぐら　白山権現…85

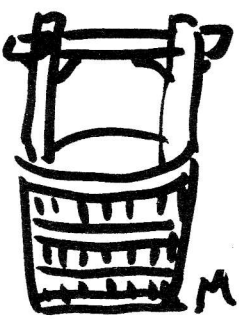
あげな話こげな話題

孫とん語らい……88
駅名つづりかた……
あん頃ん流行言葉……89
孫んおしゃべり……
神様　仏様　欲張り損…90
方言生活と数字……91

心に残る方言

もらい湯……96
母なればこそ……97
お膳箱……98
アワ飯塩シャケ……99

あとがき……100…



五助与子吳衛道物語

往還田に菜の花ひらく

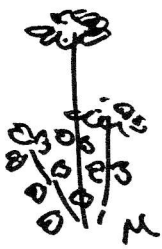
参勤交代ん行列が野津原ん　お陣屋を出た時ぁ曇ジャツタが　やんがち陽が昇っち来る頃にゃ　ちった晴間も広がっち柔ぇ光がさしでーた。五助ん行き来するんな朝早たちじゃが　ここかる鶴崎マジャ６里が切るる。行列もデーラが多いき肥後カルン　おしまいは楽な一日になるごたる。

恵良ん端まじ来ると細長ぇ道が走っちょる。ヨッポズ作る時ぃ人ん頭が働れーたんか　回りん田んぼん中じ誠ち美しいこつ。そん端え菜の花が咲きはじめた。青草が伸びはじめち黄色ん菜の花　一際目を捕まえちくるる。すぐネキん七瀬川んせせらぎも　旅んダリューー慰めちくるるような　ソゲナ響きが何とん言えん。

丸木橋ぅ上手に渡る先走りが　ヒラヒラ小走りに通り越すと続くしも　いいとこるー見しょうちツゥダ。蝶がヒラヒラ追うごつ後に続くなー　冷やかしかんしれんが束ん間ん出来事ぃ　皆ん顔が笑顔に変わった。行列は二の瀬　三の瀬ち　七つん瀬を越えち　晩方早う鶴崎いチータ。

往還が今じゃ田んぼになっちシモゥタ。ソシチこんだ河川拡幅じ半分以上が道になった。昔ん面影がチョコット残っちょるんが　痛痛しいケンド田んぼと菜の花が　何か語りかけちクルルような当時ん　仄かん夢物語が湧いちくるゴタル。“二の瀬三の瀬無事瀬を渡り　辻の不動に笠を脱ぐ“

馬子の五助の馬子歌に哀愁がこめられちょるんも　ここじ生まれ育ったからじゃろう。往還田ち言わるるこん田かる今年も　稲がガイトー取るりゃいいにち思うと　大事にしちもらいてー昔ん道が　懐かしゅうナッチもくる。



★　やんがち…間もなく　やがて。ちった…少しは。早だちじゃが…早く出るのですが。ここかる…この場所から。切るる…少ないけれど。デーラ…平坦な。カルン…からの。マジャー…までは。ごたる…ようです。ヨッポズ…よほど。捕まえちくるる…とらえて。ネキ…すぐそば。ダリュー…疲れた　疲労。ソゲナ…そんな　そのような。ツウダ…飛んだ。ごつ…ように。チータ…着いた。シモゥタ…しまった。ソシチ…それから。こんだ…今度は。チョコット…ほんの少し。ケンド…けれど。ごたるようです。じゃろう…でしょう。ガイトー…たくさん。ナッチ…ナなって。

一の瀬渡しの猫柳

瀬渡りの大けな一の瀬ん渡しにゃ　春先に猫柳がうぶ毛を揺らしちょる。五助さんが頼まれち暇暇に刈り取るんな　炭俵ん尻に巻いち使うに都合がいい。やわらしゅうじ言う事ぅゆうきくき。今日も昼まじ仕事んきりがちーたき　足ぅまくっち川にへーえた。まあ冷てー水でん春が向ぅ山まじ来ちょるき　もちっとん辛抱じゃろう。

『はりこみよんなー』『どき行くんな』『ばぁさんが悪いきー』『なにえ　そりゃ心配じゃなー　それじどげんふうな』『腰ぅたごけーたごたる　朝かる起けたてんじ』『お前　腰ぅ使い過げたんじやねー』『そげんこたーねーで』　慌てて打ち消すごたる仕種に笑うわけにもいかんじ五助も　うつむいちしもぅた。

ちっと陽かさすとやっぱ春先　ぬくうなった川ん水に石ぅ投げこむなー　顔なじみん近所ん娘。『こりゃー水がかかるじゃねーか』『目がさめたじゃろうがえ』『なんや……』　もがえん年頃ん娘にゃ時にゃ相談受けたり　加勢しちくれたり役にも立つ。『どき行くんか　早ぅ入っち加勢せんか』『ママぉよき食うてんいいな』　いつもトワズ言い合う仲じゃき腹もたたん。

ひとはずみに刈り取ると　ちょうと一服するこちーした五助。心ん中じゃ仕事ん事やら荷物んことやらが　頭ん中じぐるぐる舞いよる。来月た忙しゅうなるき今んうちー　他ん仕事ぅかたづけちょかにゃ　あたで仕事が入ったりもするき。たばこん煙りが宙に輪を書いち　ゆらゆらち上っちいった。

『よーい　忙しいんか　頼みてー事が出来たんじゃが』　たまがっち振り向くと　組長ん若えもんが橋ん上かるオラビヨル。『何事が出来たのかえ』『晩まじカンタンに荷物運うじくれんかな』『いいですぐ行くわな』　二つ返事じバタバタ刈り取った猫柳ぅよせ　気忙しゅう家に帰った。出番がある人間の幸せな姿。

馬に荷物がちつと重いけんど　デーラ道ぅ府内のカンタンまじなら　そげーダリモシメー。頑張ろうやのー　心じ言い聞かせち歩く肥後街道にゃ　今日も春ん陽ざしがまぶしいくれー。“肥後か府内か一の瀬渡りゃ　お国訛がなつかしい“

★　大けな…おおきい。尻に巻く…俵の底に丸めて入れ隅が出ないように。ゆう…よく。きりが…区切りが。へーえった…入った。ちっとん…すこしの。はりこみ…頑張る。どげんふう…どんな様子。たごけーた…ねんざ。ぬくう…暖かく。かかるじゃ…濡れる。なんや…なんですか。もがえん…逆らえられない。しちくれたり…してくれたりも。どき…どこに。ママ…ご飯食事の事。よき…たくさん。トワズ…冗談まじりの笑い話。じゃき…ですから。たたん…たてられない。

◎　一の瀬渡しの馬子の五助さんは　人あいのいいひょうきん者で人　荷物などなんでも運んでナリワイに。大分から鶴崎佐賀関や　竹田久住など巧みに運送する業師てもあった。独特な節回しの馬子歌には哀愁があり　度々利用する人は所望もしていた。

鈴が滝に映える山桜

水しぶきと水ん落つるゴーゴーいう音　修験場にゃ若え坊さんが水ごり。悟りを開き仏に仕える身も心も現世から　一歩仏門の境地じ生き抜くごたる。そん滝壺に映える山桜にゃ　優しゅう人ん心を慰めちもくるる。百姓仕事ん忙しい束ん間に目を楽しませち　はりこめや　ち語りかけちくるる自然の中ん山桜。

五助さんも帰り荷もねー時にゃ　馬ぅ引いち淵ん側ぇくんだっち谷川に入れちゃると喜ぶごたる。だった足にゃ湯がいいんじゃが水でん　だりが抜けちなんかユタットなった気分。腰ぅおりーた五助さんもウトウト眠とうなっちくる。馬は水はらひとつ飲ぅじこんだ　草原ぇあがっち来た。馬の足を癒すの『湯じたずる』ち言う。

春ん日ざしがちっと長ぅなったか　夕暮れにゃちっと早えごたる鈴が滝。“神楽ばやしに更け行く夜は　濡れてみたいよ鈴が滝“そげな馬子歌がずく　よぎっちうたた寝ん声じ唄いよるんじゃろう。いななきん馬ん声じ目がさめた五助さん　『や　いぬるや』　誰に言うんか相手もおらんけんど　一人笑いしながら。

水しぶきぅいっぱい受けち段々道ぅ上る　西ん山ぇひっかかった陽が入ると　はげしゅう帰らんとすぐ暗ぅなっちしまう。若え娘が叶わん恋に泣いたんも聞いた。見送っち別れん悲しさをここじ癒すしもあった。世情ん移り変わりぅ見つめちくるる滝　喜怒哀楽凝縮ん人間の意気様が　隠されちょるごたる。

風に先咲きん花びらが散って舞い上がる。もう春じゃきのや……馬に話すごつ言うとわかったんか　ヒヒンーと一声いなないた。かわいいやらムゲネーヤラ　五助さんの気持ちはもう何んかにん　嬉しぅなっちしもうた。人と馬が一体となっち働く時　そこにゃ幸せも……。

★　にゃ…には。水ごり…水をかぶる　滝に打たれるなどで修業する。ごたる…ようです。くるる…くれます。しませち…そのようにして。はりこめや…頑張りなさいよ。ねー時にゃ…無い時には。くんだっち…下って。だった…疲れた。ユタット…ゆっくりと。おりーた…おろした。はらひとつ…腹いっぱいに。そげな…そんな。いぬるか…帰るか。ひっかかった…かかっている。じゃきのや…ですから　でしょうから。ムゲネーヤラ…かわいそうで。しもぅた…しまった。そこにゃ…そこには。

のろし台にはエビネの花が

鶴崎に船が入ると『のろし』があがり　そりゅーここかる久住に知らする『のろし』をあげた。役人も１６人おっち家族やら下働きやら　おおごと住んじょつた。構えのいい家にゃ役人の取締り役。石垣の積み方も肥後方式じゃき　当時ん華やかな生活環境が見ゆる。そん家ん回りん日陰に咲いたエビネん花。しおらしいが香りがゆうじ　優雅ん暮らしが覗き見らるる。

久住かるん早馬が岩下ん石だたみぅ　上っちくると迎えん侍たちが並ぶ。遠い所ぅ駆けち来た馬ん汗が　湯気んごつなっち立ちのぼる。気を効かせち拭いちゃりてーが　そこが武士んシキタリじ中々出来ん。口上が済んじ『ご苦労であった　下がって休養するよう』んゲチじ　『ははー』とまぁよこわるるこちーなる。

五助さんたちも行列ん時にゃ使役に　駆り出されち荷物運びぅさせられちょつた。自分の領地じゃき賃金の心配はいらん　利口じ心優しかった加藤清正は島原ん代わり　豊後んここんあたりゅう貰いこげな時ん　使い道ぅちゃんと考えちょつた。五助は尻軽いきサッと使役に出る　とわりに楽な仕事にありついた。へんじょこんご言うたり遅れち来ると　そりゃもうひじー受け持ちが残っちょつたき　これも運損があるごたる。

『やんどどうそこじ何しよのか』『りゃー見つかった　しもぅたーのどげーしゅうか』『悪かったち言ゃーこらえちゃるど』『悪かった　もうせんきこらえなー』『そうかほんな親に言うめーかのーどげーしゅうか』　子供がカンカロを干しちゃんぬ　だまっち取りよった。

ここんしがどんくれー大事にしち　食い物んの足しにする為いに干しちゃるか…そげなこつージュンジュンに話ち聞かせた。しゅんとなっち聞いちょつた子供たちも　やっぱ根は正直じゃろう　終いにゃ泣きへへそかいち涙ぅ流しでーた。『わかったんならもういい元ん所り返しち』『あーい』

そんかわりこんだ来る時エビネを取っちくれんか…子供たちぁ不思議そうな顔をしちょつた。言わるるとおり子供たちゃすぐ　エビネを集めち五助さんの家にもっち来た。五助さんは実はエビネがここん家んしが大好きなんぬ知っちょつたき。そりゅう持っちそこん家に行くと　『これこれの事があったが許してほしい』　と申しあげたら　飛び上がるほずよろくーじ　子供たちん心が嬉しいち言ち　カンコロを渡しちおくれち貰ぅち帰っち来た。

★　のろし…煙りを挙げて連絡に。そりゅー…それを。おっち…おって。おおごと…大変な事。ゆうじ…よくて。ごつ…ように。ちゃりてーが…あげたいが。さがっち…ひかえて。よこわるる…やすまれる。じゃき…ですから。いらん…いらない。こげなこんな。へんじょこんご…あれこれ愚痴ばっかり。やんどどー…お前たちは。カンコロ…甘藷を蒸して乾燥したもの。ここんし…ここの家の人。そげな…そんな。やっぱ…やはり。あーい…生返事しかたなく。知っちよつたき…知っていたから。飛びあがるほず…真剣に　心から。

秋葉こえれば

夏が近づいち茶摘みが始まり　苗代んシコーもあっちこっちじしよる。ワクドが忙しぅ水かる頭ぅあげち鳴きよる。娘たちがカスリん端かる赤ぇ腰巻ぅチラリ出ぇち。男しが田かる帰る頃にゃチョイと　手拭いをかぶり直しち上目使いに　こっちくるかな……ち心待ちしちょる。そげないじらしい格好が五助さんにゃ　痛ぇほず解るき尚更合図しちゃる。

『こらーこっちゅー向かんか　そこん別品』『……』『お前ぃじゃ　ほら男前が通りよるど』　そげな呼びかけがあると　ドークリデン見られんき歯がいい。それでんこそっと上目使いに眺めち胸んときめきぅ感ずる。五助さんがもちっとこっち　連れちくりゃいいに……

“秋葉越えれば火伏せの森に　フロー煮えたか諏訪の灯じゃ“五助さんが馬をちょいとヨコワスルな　掘割ん坂じ吹き抜くる風が汗ん　体ぅすーと涼しぅしてもうたまらんごつ。ダリがいっぺんに吹っ飛ぶごたる。馬もえーとよこえるち思うたか　当たりん草ぅヤシボ食いする。ちょいとん間んよこいじゃつた。

茶摘みん娘たちがガヤガヤ言いながら　昼に帰っちくるぬー見るともう　どれもこれも成熟しちょる女ごらしい姿。いつ嫁ごに行ってんいいごたる　どこん誰に初めちん夢ぅ結ぶんか。俺がもちっと若けりゃち身震いしちみたが　どうやらつまらんごたる。解っちょるけんどそこが男じゃろうなー。

『昼にゃ早えんじゃねーか　ちった仕事つしたんか』『したで腰が痛ぅなっちしもぅた』『やー腰が痛えーや　大事せにゃ嫁ごん貰い手がのうなるど』『なしえ』『解らんのか　まあそん内解るじゃろう』『教えて』　五助さんの顔が赤ぅなった。

★　シコー…準備。しよる…している。ワクド…蛙。かぶり直し…頭の手拭いを品よく整えて。そげな…そんな。こっちゅー…こちらを。そこんべっぴん…そこの美人。よるど…いますよ。そげな…そんな。ドークリデン…冗談にも。歯がいい…恨めしい。もちっと…も少し。フロー…田のくろに植える豆の一種。ヨコワスル…休ませる。たまらん…予想以上の快感。ダリ…疲れ。えーと…やっと。ヤシボ食い…品の悪い食べ方。ちょいとん…ほんの少しの。嫁ご…お嫁さん。ごたる…ようです。どこんどこの。つまらん…だめな。しもぅた…悪くなった。

諏訪に似合うアジサイ

五助さんが荷物ぅ運ぶナリワイを始めち　もう５０年くれーなるんじゃろう。髭がゆう似合うのんも優しい気持ちが　そりゅー引き立てちょるきじゃろう。今日は諏訪ん里ん庄屋さんかたん家かる　役所に年貢ぅ運ぶこちーなった。かまげに詰まった物ぁ何じゃろーか　小首を横にしち五助さん思案顔。

小役人にちょこっと聞くと目をむいち　怒られたが…そん後手を引っぱっち影に引きこむと　『黙っちょけや　実はの茶の実がはいっちょるんじゃ』『へーえ』　たまがっち大声ぅあげたき小やくにく役人が慌てち五助ん口ぅふさいだ。『大声だすと庄屋さんに聞こゆるじゃねーか　折角教えちゃろうち思うたに』

五助は不思議に思うた　なんじ茶の実が年貢になるんかち。考えてん俺んぼんくら頭にゃ解らん…あきらめち庄屋さんの納屋に入ると　そきー年貢の世話ぅするしが待つちょる。『五助さんか年貢運びにご苦労じゃのー』『いんにゃ商売じゃき　いつもおおきに』　心得たもんじ納屋ん中かる運び出すこちーなった。ぼちぼち暑ぅなり風にアジサイが揺れちょる。

五助さんがでーぶん前に庄屋さんかる　相談ぬ受けた事がある。『年貢に困っちどげーしゅうか』ち　言われた時んこつ…茶の実なら　『ばあさんでんいいんじゃねー』ち　言うた事ぅ想いでーた。茶の実と茶飲み　別ん事じゃけんどそん意味は　同じ『ちゃのみ』んこつ。五助ん頓知じ役人も『解った解った』ち帆を下げた。

そげんこつー想いでーちニヤニヤ笑いよったら　奥かる庄屋さんが出ち来た。五助ん声に気がちいたけんか　憎めない頓知者に実は庄屋も愛着ぅ感じちょる。『五助さんか　来なりー』『はい　おおきに』　五助さんな仕事に来たにち思うたが　むげに断りも出来んき裏口に回った。

こつぼにテマリコが咲いちょるんが　ゆう回りん木々に調和しちょる。『あんときぁ茶飲みと茶の実じなえ』『あげんこつーゆうしたち内心ビクビクしました』『おおきに…あん時ん　ばあさんも来ちょるき』『えーそげんこつー』　あきるるやらタマガルやら……茶を運んじきたんが　そんばあさんじゃつた。テマリコが又風に揺れた。

★　ナリワイ…生活仕事。くれーなる…くらいなる。そりゅー…それを。じゃろう…でしょう。かたん…家の。かまげ…かます。じゃろうか…でしょうか。ちょこっと…ほんのすこし。ちょけ…いいなさんな。たまがっち…びっくり。ちゃろうか…あげよう。なんじ…なで。なるんかち…なるのかと。そきー…ひこに。いんにゃ…いえいえ。ぼちぼち…そろそろ。でーぶん…だいぶ。どげーしゅうか…どおしょうか。時んこつー…時の事を。いいんじゃねー…よいのでは。さげた…参った。そげん…そんな。ちーたけんど…ついたけれど。来なり…よく来た。こつぼ…庭園。テマノコ…アジサイ。あげんこつー…あんなことー。そげんこつー…そんなことを。タマガル…吃驚する。そん…その。じゃつた…でした。

三国境のカンナの花

汗にマミレチ上っち来た坂道ぅふりケーエチ　一息つきゃー風がこんころもちゆー腋ん下かる　股くらまじ飛うじ抜くるごたる。息が詰まるごたる風ぃフーチ一息チータ。目に汗がしみクージョツタんが　嘘んごつイツンナカメーカ止まったごたる。風ぃ揺れよる赤ぇカンナん花ぅ見ると　近所ん子供たちが『ままごと遊び』ぅ　しよったんぬ思いでーた。

『お医者さんごっこシュウカ』『いいで』何も訳ん解らん　それでん人間の本能じゃろうか　相手んアゲナ所も見たがる。ち言うよりそれが自然体かん知れん遊びに　ハグッチ見ると何とエエラシイ膨らみ。それかるドゲーシタンカ覚えちょらんが　お互ぇに違うもぬー持つ不思議なに　きょとんとしち時間な流れち行く。

カンナん花ぉシソに巻いち『これまきずし』　ち言うたんかん知れん仕種に相手もうもぅ合わせち　上手に頭ぅさぐる。お客さん気どりんママゴト遊びが途中かる　夕立雨ぃデクワシちタマガッチゴザぅ引きズリクゥジー安心したら　何のこたーねー西ん空にゃ虹も出ち　これじおしまいでち言わんばっかりー　止んだ。

五助さんも今市かる今日はコンゲサネ　下っちここまじ来ると一服するんか　馬が心えたもんじサッサち草ぅ食い始めた。『暑かったジャロゥノー』井手かる水ぅ汲んじくると　頭かるチットンズツかけち　こんだ足にかけちゃると嬉しいか　嘶き声がはずーじょる。『こきー腰かけんな』峠んしが声ぅかくると　『すまんなえ　サカシイな』　そん一言がどげー嬉しいか。

『お前もさかしゅうじ　フガイイな』『俺なタッシェしちょらにゃ　若ぇ女ごしがムゲネーキ』『チャーラ　そうじゃなーうっとうもそん一人で』『えーそげんこたーあるめー』　大声じ笑うた。

★　まみれち…ぬれて。ふりけーぇち…ふりかえり。つきー…つけば。こんころもち…心地よく。ふーちいといきちーた…ふっと一息ついた。くぅじょつた…しみこんでいた。いつんなかめーか…いつのまにか。しゅうか…しましょう。あげな…あんな。はぐっち…はぐって。ええらしい…かわいい。どげーぇしたんか…どうしたのか。きょとんと…びっくりがお。うもう…うまく。たまがった…吃驚して。ずりくうだ…引きこんで。こたーねー…事はない。でち…です。こんげさね…こちらのほうに。じゃろうのう…でしょうなあ。ちっとんずつ…すこしずつ。さかしいな…元気ですか。ふがいい…よかった。たっせーしちょらにゃ…元気にしていないと。むげねー…気の毒。ちぁーらー…どうしましょう。うっとう…私も。げんこたー…そんなことは。

早霧峠の白ユリ

五助さんの馬子唄が聞こえち来る。“肩を抱き寄せ乱れた髪を撫でりゃ馬子唄近くなり“　折角のいいとこりー五助さんが帰っち来たんか聞こえちくる。朝草切りん若い連中がみんなじ来る早霧峠にゃ　好きな者同志もあっちほかんしが気を効かせち　二人だけにしちやる。そりゅういいこちーいつまでん出ちこんと　他んしも気を使うき考ゆりゃいいけんど　熱ぅあげちょると解らんごつなるんも　ゆう解る。

“草が高ぅじ姿が見えぬ　積み荷出来たんかあんふたり“　『よーいいぬるど』　わざっとほかん方向みーちオラブと『解ったど』　へんちくりんな所かる返事が帰った。みんなが内緒じ時間ぬ取っちくるる友情　草原ん花より尚美しいごたる。やんがち夫婦になるんじゃきセカンデンいいに　そこが若えしのことじゃき惜しい朝ん一時。がやがや言いながら中荷まじ乗せち
帰り道まじくると　冷やかし声があちこちかる出るが。

五助さんとん出会いん場所もてーげー同じばしょ。一足先いちーた五助さん…くわえたばこじ迎えちくれた。『やんどうはりこむのぅ』『どげーな　どっかいい嫁ごはおらんなえー』『やーやんなくじゅう言うんじゃねーんか』『いんげ　あげんおろいいこつーゆうち…のや　くじゅう言わんのや　ちっとん』　みんな腹ぅ抱えち笑うもんじゃき本人な　恥じんかきっぱなしぃなった。

五助さんもちゃんと解っちょるんじゃが　これが中々帯にゃ短ぇしたすきにゃ長ぇし。『そんうちー三国一ん別品ぬセンギしちゃるきの』『ふんとえ　おおきに当てにしちょるで　ああよかった』若い者にゃそれなりん焦りもあっち　ちっとでん早ぅ決まるんぬもぅ待ちきれんごたる。

朝飯ぅ食うと今日もそれぞれん家ん仕事が　待っちょるが中にゃ役場やら組合やらに勤むるしもある。嫁ごに決まったしは時にゃそん家ん加勢に行つたり　そげな事がよきー残ったしにゃ目の毒にもなっちょる。けんどこればっかりゃ縁じゃき仕方ねー　若え時代をまあ楽しんじょくのんいいかん知れん。“好きち言えんき風呂たく娘　煙いばっかりじゃねえごたる“

★　とこコリー…所に。ほかんしが…他の人が。しちゃる…してあげる。そりゅう…それを。出ちこんと…出てこないと。ゆう…よく。わだっと…冗談に。みーち…向いて。おらぶ…叫ぶ。へんちくりん…変な予想外な。ごたる…ようです。やんがち…やがて。なるんじゃき…なるのですから。せかんでん…急がなくとも。中荷…上に余分に。やんな…お前は。てーげ…たいがい。やんどう…お前。ちっとん…すこしも。別品ぬ…美人を。せんぎしちゃる…探してあげる。ふんとえ…本当ですか。ちっとでん…すこしでも。じょくのん…おくのも。◇　白ユリにゃ昔かる高嶺ん花ち言われた。品がゆうじ優しゅうじ温かな人間性もある。そげな嫁さんが理想的じゃけんど。

アオになでしこ語りかけ

ちっとー秋風ん感触もしでーた横道　それでん日中はまー暑い陽がじりじり。人が通るたんび揺るる道端ん草　そりー横たくりん山ぇ愛らしい『なでしこ』ん　花が何かしゃべっちょるごたる。アオんやつもそりー返事するごつ　一声ヒヒンー…山にこだましち帰っち来た。もうじわじわ秋がにじみ寄っちきたんか。

“ひさしぶりだと１０年前の　客をのせての馬子の旅“　五助ん馬子唄ぅ聞きてーちわざわざ待つ　そげなお客さんは有難ぇもん。『京んほうん景気はどげーでしたな』『いやーそりゃーもう景気も賑わいもゆーじ』　五助ん方言に釣りこまれち平口じ。それがもう何年も前かるん知り合いんごつ　懐かしい道中んひとこま。

“峠こしたら庚申塚の　里を尋ねる旅の女“　五助とんすれあいに旅姿ん女がおった。顔は知っちょるけんど思い出せん　いっときしちえーと思いでーたが　どきんこきん居るごたるようなしと違う美人。肥後ん若旦那にみそめられち嫁入りしたしじゃつた。ちっとん変わらん色白ん別品…得なことじゃのー。

『さいでんの女ごしゃ別品じゃつたなー』『そげー思いやんするな』『思うで…見取れちあぶねーん落てそうになった』『りゃーまぁおおごつ　つくりたつるはずじゃつたな』　そんくれー一目も引くごたったが　所詮な人ん妻。道中にゃこげな面白い事も楽しむ事もあっち　行きつく旅ん妙味じゃろう。

『あげんしといっぺんぐれー寝ちみてーなー』『そうじゃなー私もそりゅー話そうかち思いよった』『考えゆるんは皆あいこじゃなぁ』　男ん色話しにアオが焼き餅焼いたか　ちょいと足踏みしたもんじゃきイサブリマエータ。『たまがるじゃねーか』
『どうやら話が気にくわんのかな』『しかとしもねー』

★　しでーた…しはじめた。じりじり…じわじわと。よこたくり…よこむきに。そりー…それに。じわじわ…ゆっくりと。てーち…たいと。そげな…そんな。そりゃーもう…それはもう。えーと…やっと。どきんこきん…どこにもここにも。したしじゃつた…した人でした。さいでん…さっきの。そげー…そんな。あぶねー…あぶない。つくりたつる…つくりあげる。こげな…こんな。あげんしと…あんなひとと。そりゅう…それを。ゆるんわ…のは。あいこ…おなじおもい。いさぶりまえーた…ゆりうごかした。たまがる…びっくりする。しかとしもねー…面白くもない。

野菊の向こうは里の山

母親が近ごろ具合が悪いちびんがあった。行きてぇけんど仕事の都合やら親に言い出せんき　婿じょうでん気を効かせちくるりゃいいに。それが気がきかんきどうしゅうもならん　焦る気持ちう堪えち野帰る時にゃ背伸ぅするごつ　『あん向こうん山ん下にゃ在所があるに』　ちなさけねー思いがする。

“在所こいしや歩けば三里　山が高ぅじままならぬ“　ひょいと飛びこえて行けるる所ぃ在所はあるに　そげー思ゃなおさら気もそぞろにいら立つ。五助さんが帰り荷を積んで坂道ぅ下るぬー見ると　何か話さにゃもてんごたる気分が燃えたぎる。『五助さん今帰りな　やぜんなお邪魔したなえ』『いんにゃいいど』

何か言いたげんしこーに目ざとく感じた五助　『何があったんか』『……』『言うちみよ　在所んははじょうは元気なんか』『それがもう』『やー悪いんか　ひじいんじゃねーか』　そりゅゅ聞くともう泣き崩れんばっかりいになっち。そりゅう見た五助は婿じょうに謎かけしち話した。

『あしたどま　在所に遊び行っちくりゃいい』『どげーしたん』『在所ん母じょうが悪いごたるど…親孝行しちょきゃ損なせんど』『そげんことな　知らんじゃつた　ほんな行っちくーか』　五助ん話にゃ誰でん動くもんじ　どうやらコイサでん行くこちーなるごたる。五助もよかったち思うが娘にゃそれ以上じゃろう。

夕飯もそこそこにしち夫婦が義親んみやげも　躍る思いん夜道にゃもう明かりも案内もいらん　通い慣れた道じゃもんわくわくする、んもゆう解る。やんがち家ん灯が見えでーたら　たまらん気持ちが足ぅせかする。つらにきー義親でんこげー簡単に在所に行くこちーなっち　みたら福の神にも見えちくるかる不思議でんある。

五助さんおーきに　おーきに　心ん中じ胸ん中じ感謝する。おーきに…あん時ぃやっぱ話ちよかった。涙がこぼれちくるぬーどげぇもならんごつなった。“在所恋しや歩けば三里　山が高うじままならぬ“　母に逢うだけでん……どんくれー嬉しいか。今夜は泊まりゃいいわ。

★　びん…たより。どうしゅうも…どうにも。野…畑。ごと…ように。なさけねー…悲しいこと。そげー…そんなに。にゃもてんごたる…話さないと気が晴れん。やぜん…昨夜。いんにゃ…いいえ。しこぅ…動作。ははじょう…母親。ばっかりになっち…なさけないまでに。あしたどま…あしたでも。しちょきゃ…しておけば。そげん…そんな。ほんな…それなら。コイサ…今晩。たまらん…もてないように。やんがち…やがて。たまらん…我慢できない。らにきー…本当に憎いのに。おおきに…有り難う。こぼれち…とめどなく流れて。どげーも…どうにも。ならんごつなった…ならないようになる。

親とはいいものだけに嫁を大事にするのも　自分の娘が大事にされる結果にも結びつく。けどはたして世の中如何なものか。

柿が赤ぅなりゃ

柿が赤ぅなりゃ医者青ぅなるち言うごつ　柿にゃ人間にとってん滋養になる物んががいと　入っちょつたんじゃろう。汚れた手を洗いもせんじ着物ん端じ　ひんぬぐうとガブットかじりちーた。豪華ち言うか物おじせん度胸は　タイシタんじゃった。“朝山帰りん荷草に揺れる　可愛い山ユリ誰のやら“　若いしどうが朝飯前に草きりするなー　習慣でんあり楽しみん一つでんある。

『あんまり食うと腹がせくど』『せわねーわな何ぅ食うてんあたやせんき』　柿ぅ食うきかサカシイのん滋養があるきじゃろうな。五助さんの知恵がいつんなかめーか　若ぇしにも教えこまれちどこでん　生かされちょるのん嬉しいもんじゃ。“瀬戸ん地蔵になに願かけた　あの娘秋にゃ嫁行くに“　年頃ぃなっち人かる羨ましがられて　アルクのん近まった。

恥ずかしいやら嬉しいやらん気持ちぅ　友達ぃ話すと『いいなーうっとどー』ち　しょげくーだ。無理もねー同い歳じいつまでん話んねーのん　ちっと淋しいもんじゃがこればっかりゃ　売っち歩くわきゃいくめーき。そんうちーいい話もあるんじゃねーち　慰められちため息ぅついた。元気ん出る柿ん熟るる頃ち言うに。

★　とってん…とても。がいと…たくさん。入っちょつたんじゃろう…入っていたのでしょう。ひんぬぐうと…さっとふいて。ちーた…ついた。じゃつた…ものでした。せく…いたむ。あたりゃせん…いたまないから。なかめーか…知らぬ間に。アルク…嫁に行く。うっとどう…わたしたち。売っち歩く…売りこむ。めーき…まいき。

秋になると祝言が多ぅなる。年頃ん娘にゃ落ち着く先が決まり冬ん寒い晩な二人ん暖かな夜が。それが労働力の補充でんあった。

明日は早発ち恋の花

“駕籠で行こうかあん石だたみ　宿ん障子に灯がともる“夕暮れにゃちっと早かったがワヤワヤしよりゃ　すぐ日が暮れち回りゃもう薄暗ぅなった。こいさ一晩の宿に入ると湯殿に回る。五助さんも荷鞍を下ろすとダノモンぬやる。一日働いた馬こす大事な宝じゃき拝むと　こんだ自分がん楽しみんチョコ仕事。

『五助さんおがらんのー』『もうあがるめーおみつが待っちょるき』『そうな　ほんなこりゅう……』　さいでーた包みにゃ心くばりん物が。『いつもすまんなー』『あげんことんじょう』　きさくに宿んばあさんが年頃ん　おみつん事も考えち口珍しいもんなんかを。日ごろ世話になる五助さんに手戻ししやろう。

いつじゃつたか借金に苦を見ち困ったあげく　五助さんに助けられた恩があるき　粗末にすりゃ罰があたる…ち心に決めちょるき。『お客さんが多いんな』『お影じな多いんで』『ふがいいなー』『これも五助さんの……』『そりゃもう言いこなしで』『すまんなえ』『ほんな　おみつに貰っち帰るで喜ぶわな』

“明日は発つのか小窓をあけち　宇曾に小雨が降ればよい“　客の心に答えた接待が気に入られたのか　雲行きが悪いと足が鈍る。『も一日ゆっくりしたら』『どげーしゅうかち思いよる』『気が進まん時ぁよこうがいいで』　二の足踏んだ客も決めたごたる…『ほんな今日はゆっくりよこおう』

★　しよりゃ…していれば。こいさ…今夜。ダノモン…馬の餌。チョコ仕事…酒飲み。あがらんの…座敷にには。ほんなこりゅう…それではこれを。さいでーた…差し出した。あげんことんじょう…あんなことばかり。口珍しい…珍しい食べ物。じゃつたが…でしたが。ふがいい…運よく。よこう…休む。

梅はまだかいな

五助さんも朝が早ぇき昨日引き止めた客も　一緒につれのーち早発ちしち府内ぇに向かうた。“三里坂道荷物を渡しゃ　うしろ姿に涙ぐむ“　別れはせちなぎーけんど　それが又出会いん始めでんあ。『気をつけち……又帰りにゃお泊まりを』『おおきに』　客も帰りがいつになるか解らんが　気さくに泊まれるなー嬉しい。

ゆうべ夜中に夢ぅ見た…別品に取り巻かれち賑やこう騒いだ時ひょかっと天狗が現れた。何でんここん近所にそりゃそりゃ美人がおっち　嫁にしち欲しいち言い張る。仕方のう承知したら誠ちゆう働くが　惜しいこちー夜がとっと駄目じゃつた。それでん優しい心を大事に誰にも言わんじ　仲ゆう暮らしたらしい。

いつんなかめーか噂が広がっち五助さんが　そりゅう確かむるこちーなった。こいさちょこっと寄っち見ろうち覗くと　こりゃ又ぁ大事なんとそりゃー白蛇じゃつた。たまがった五助さんな一部始終を話すと　夫婦にこれからん事ぅ確かめた。正体がわかった嫁ごは『ここんしが植えた梅ん木の穴に親が埋められた』と　言う『そりゃーすまんこつーした』ち　断りぅ言うと親が安心したんか　今まじ花が咲かんじゃつたんが　いっぺんに咲いち満開になった。

『解っちしもぅたき私も元に戻りたい』ち　言うき無理もねえち諦め返すこちーした。五助さんも『二人は四国参りに出た』ち言うこちーしち　こん話は一切せんこちーしたち言う。優しいしに巡り逢うち喜んだ白蛇も　そりゅう大事にしちゃつたこんしも　心が広うじ優しかったきよかったち思う。風ん便りによりゃ他所じ旅んしん宿をしよるが　白蛇ぅ祭っちとてん人気がいいそうな。夢なら覚めんごつしちあげてーもんじゃが。梅ん花が今年もゆう咲いち香りが　回りんしどーによっぽず気に入られちょるごたる。

★　つれのーち…連れだって。府内…現在の大分市。せちなぎー…切ない。ひょかっと…突然。しかたのー…しかたなく。とっと…ほんとに　うっかり。なかめーか…まにか。こいさちょこっと…今夜ちょいと。そりゃー…それは。たまがった…吃驚した。咲かんじゃつた…咲かなかった。ごつー…ことを。

あん娘としごろ

あん娘も年頃になったごたる　胸ん膨らみも尻べらん出たごたるんも　動くたんびに若々しさが伝わる。“あん娘としごろアネサンかぶり　いつか覚えた馬子歌を“　五助さんが歌うぬー聞いちょつち　いつんなかめーか覚えたしは多い。そん五助さんが今日は久しぶりーよこいよる。そん四方山話が咲いちょつた。

横道をテクテクク歩いち通う事３０年　ゆうあかんじち思うがそん根性にも頭がさがる。世利川ん事務所に四季を通うじちまあ何と通いつめた。石だたみがありデコボコ道が続く　坂道も日陰も雨降りも雪ん日もあっちょろうに。人間の根性たー恐ろしいもん　ソシチやり抜く信念にゃ参った参った。

『もう嫁ごに行くか』『いんにゃいかんで』『なしや　いいしでんおんのか』『いんげそげんしゃおらん』『ほんなお前ゃ変わったもんでんチーチョルンカ』『知らんで』　冷やかされてんびくともせんごたってん　内心じゃ早くどこかんいいしが　現れんかなー』ち　思うんが常じゃろうごたる。

“母は達者か小岩戸橋を　越えりゃ背の子も荷も軽い“　母ん顔がちかっと見に浮かんだ。母に安心させにゃち思うけんど　こればっかりゃ相手がおらんこちーにゃ。そげー思うゃもう誰でんいいち思うたりん乙女心が揺れ動く。“告げぬ想いのあの人待てば　今日はクルクル水車“　水車小屋の水しぶきが無性に恨めしい。

★　尻べらん…おしり。ゆうあかんじち…よくもまあ長々と。あっちょろーに…あっただろうに。そげんしゃ…そんな人は。チイチョルンカ…ついているのですか。ごたってん…それでも。いいし…いい人が相手が。背の子も荷も軽い…逢う嬉しさで何も重く感じない…ましてや母親じゃもの。おらんこちーにゃ…いない事には。

“あの瀬浮かべた小舟ん舵を　どこんどなたが取るんやら“　娘ざかりん今なら相手さえよけりゃ　いっそ嫁に行っち落ち着きてーんが人情じゃろう。五助さんもゆう世話ぅしちくるるき　気をつけちょるんじゃが　それがそれ何とかじこればっかりゃ　難しい問題んごたる。それでんヒョカット『行くか』ち　だまし言われちそんまま話が決まった事も。

好きち言えんき相手もゆう分からんけんど　どうかしたヒョウシじ『まぁ嫁ごにゃ行かんの』ち　聞かれちタマガッタ事もあった。そんあと何のこたーねーき『やっぱふられた』　胸ぅ痛むるか弱い娘。それが時ならん時ぃ隣んばあさんが『あんしゃどげーな』　声がかかった。身震いするごつ嬉しいやら不安やら　『祭りにつれち行きてーち言うが』『……』『とったんに言うちゃろうか』　娘ん胸はもう早鐘が鳴っちょつた。

“府内帰りんまひ馬子唄聞けば　針ぅ持つ手がまたとまる“　夜が更けち馬ん足音がコツコツ…響くともしかしたら　ふせもんぬする手元が止まっち　母じょうが心配しよるんじゃろうち　眼鏡ごしに顔ぅ覗き込むと頬ぅ赤ぅしち　くるりと横向いた。仕種がええらしいやらムゲネーヤラ。『あの人じゃなかろうか』　思い切って母に切り出すと『ちよっと出ち見なー』　母も気が気じゃねーき娘ぅせき立てた。いそいそと立ち上がった娘ん姿が分かったもんじゃき　とったんが気を効かせち奥に入った。いいところがある親父　どうやら親子とも乗り気んごたる。

★　ゆう…よく。何とかじ…なんとやらで。ヒョカット…突然。だまし…急に。ヒョウシじ…はずみに。タマガッタ…吃驚した。どげーな…どうですか。とったん…父親。ふせもん…衣類の補修…今は珍しい。ムゲネーヤラ…可哀相な。

“早く行きよと気づいた義姉が　親に内緒の戸を開ける“　気をつけち行きよえ　義姉が心くばりしちくるる　にー甘えち　娘はもう有頂天になっちしまうた。祭りに連れて行くち言われち母親に　義姉に相談すりゃ『いいわな行っちきよ』ち　賛成しちくれたもんじゃきトッタンにゃ　内緒にしちょつた。

トッタンもそんくれーこたー分かっちょる。昔でーぶん女ご泣かせしち母じょうに　五助さんの力じ断りぅ言うたベテランじゃき　いざち言う時にゃ五助さんの出番もある。“行かざなるまい待たせた夜は　しのぶ恋路の月あかり“　約束しちくれたしがもう門口ぃ待っちょつた。月が雲に隠れたり出たり。

『すみません』『出られた　しょわねーんじゃろー』『うん』それだけ言うともう嬉しさが体全体を包みくうだ。そっと寄せた肩ん手が温もりが伝わっち　全身に電気がはしるごたる。月が雲隠れたら手を握っち歩きでーた。何ちハナシたらいいんか夢んごたる今ん自分に　夢ならさめんじょくれち心でオランダ。

“冷えた夜風に甘酒ついじ　揺れる障子の影二つ“　差し向かいじ甘酒飲むそげなこつー想いながら　そぞろ歩きん月あかり。

★　行っちきよ…行ってきなさい。もんじゃき…ものですから。それくれ…それくらいは。オランダ…叫んだ。じょくれち…覚めないでほしいのです。どぅやら二人ん夢はほんもにーなっち　これかる先は義姉さんにも恩返しせにゃ。…五助さんも忙しぅなりそう。

幼児の歌

VI

亥の子唄

★　今夜の亥の子　祝わん者は　鬼生め蛇生め　角生えた子生め
　祝いましょう　祝いましょう。
　福の神入って来い　貧乏神出て行け。

ここの屋敷はよい屋敷　中はぐおーで　がわ高うで。

★　イノコン　イノコン　こんやの亥の子を　祝いましょう
大黒さんと言う人は　一に俵を踏んばって
二でニッコリ笑ぅて
三で杯さしおーて
四つ世の中よいように
五つ泉のわくように
六つ無病であるように
七つ何事ないように
八つ屋敷をまわりうち
九つ米倉おんたてて
十でめでたく祝うた。

★　大黒さまと言う人は　一に俵を踏んばって
二でニッコリ笑ぅて
三で酒を酌み交わし
四つ世の中よいように
五ついつもの如くして
六無病息災で
七つ何事ないように
八つ屋敷を買い広め
九つ米倉建て並べ
十でとうとう納まった　どっさり祝うちょくれ。

★　今夜の亥の子　祝わん者は　鬼生め蛇生め　角生えた子生め
　　エートナエトナ　もひとつ　おまけに祝いましょう。

町内でん地区によっち　そん唄もいろいろあるけんど　そん唄うリズムは　だいたい同じ調子じ唄う。藁じ作った亥の子ヅチじ　地面ぬ叩くなー虫よけん意味か。

昔ん暮らしにゃ貧富ん差が激しかったき　時ん偉えしがせめて子どもたちにゃ　米ん出来あきぐれーは　平等に餅ぅはらひとつ食わせちやりてー　そげな心くばりが今日ん『亥の子』に　つながっちおるごたる。いつん世の中でん『こなすしとたすくるし』が　おるのん　福の神　貧乏神が対象になっちょるんじゃろう。

緒方町ん『亥の子唄』も　祝い唄として

★　今夜の亥の子祝いましょう　大黒さんと言う人は　一で俵をふんばって　二でにっこり笑うて　三で杯さしおうて　四つ世の中よいように　五つ泉のわくように　六つで無病であるように　七つで何事ないように　八つで屋敷をまわりうち　九つ米倉おん建てて　十でめでたく祝うた。

悪態唄として

今夜の亥の子祝わん者は　鬼生め蛇生め　角ん生えた子生め。

イノコ神　亥の日神として農村の大切な行事であった。各地で内容は異なっても　気持ち　心は同じであったのだろう。収穫した籾が被害に合わぬよう　特にネズミ　もぐら　などは大敵であったのだろう。地面を叩き虫や動物を追い払う　頷ける。それらを子供の遊びに結びつけたアイデア　微笑ましくもなる。

★　寒餅を焼く頃

二月は寒餅焼く季節　乞食焼きちゅの知ってるか
焚き火に餅を投げこんで　少し焼けたらかじりつき
又火に入れて棒で突く　良く焼けぬうち食うてしまう
これがほんとの乞食食い

百姓焼きを知ってるか　網一杯に餅を乗せ
強い炭火でたっぷりと　いささか焦げても気にはせぬ
五つ六つは鷲つかみ　あっという間にたいらげる
百姓焼きとはこんなもの

大名焼きを知ってるか　まず片方がふくれたら
銀のお箸で裏返し　又火にかけておもむろに
調味をつけて皿に盛り　蒔絵の盆にのせて出す
これを大名焼きという。

★　田植え終りぬ

苗代　田植え　稲刈りと　一年中の繰り返し
谷あいの町　のどかなり　さなぼりすれば一休み

今日も朝霧踏み分けて　大川端を一人行く
水辺に遊ぶ白鷺の　葦の葉陰で鳴くかじか

夕風そよぐ田んぼ道　揺れる早苗に目をやれば
去年育った七株の　稲の香りが忘られぬ

今年はじめて裏庭に　芋づる植えて小半月
やっと根づいて草を取る　日毎に延びるたのもしさ

岩清水

宇曾で生まれた岩清水　日暮れの坂をどこへ行く
どことて当てはないけれど　流れ行くのが我が運命
別れを惜しむ松の風

哀れ淋しく行く姿　川の広きをまだ知らぬ
やがて降り着く七瀬川　温見吉熊船平の
水と逢うたら道連れに

七つの瀬音鳥の声　聞きつつ通るうねり川
心に映せ旅日記　町の濁水苦かろが
飲んで染まるな宇曾の子じゃ

春雨の詩

霞む山道に夢追いて　雨の坂道辿り行く
どこで鳴くのか初蛙　人思う身の侘しさを
そぞろに揺する春の雨　ええ春の雨

岸の柳のつばくらめ　夫婦揃っていとしごの
餌をさがして巣に帰る　翼ぬらせば冷たかろ
なでに濡らすか春の雨　ええ春の雨

遠いあの日の街角に　母がさがした蛇の目傘
高き足駄も懐かしや　想い出させて泣かすのか
今宵又降る春の雨　ええ春の雨。

山村暮らし

みやまの奥は水清く　樹樹の香りにさそわれて

仮の居場所に根をおろし　小鳥の唄を聞きながら
早や五つ歳は過ぎ去りぬ

朝はジョギング身を鍛え　昼は楽器で手をならし
午後は作詞の種捜し　名ある古跡や方言も
たずねて綴る土地の唄

烏の家族

小鳥は人に好かれるが　からすはいつも嫌われる
なぜに烏を嫌うのか　色が黒でも知恵がある
からすかん太郎好い男

黒は黒でも濡葉色　黒には黒のよさがある
お顔の白い美人でも　烏が見ればおかしかろ
烏の母ちゃん良い女房

さもあれ烏はなぜにまた　あれほど艶があるのだろ
見れば見るほど黒びかり　今朝も田んぼで餌やるぞ
からす鹿の子は良い娘

秋風たてば

露の白玉素足で踏めば　コスモスの花揺れて散る
どこかで匂う金木犀　湿った土に鍬打てば
霊仙山に陽が昇る

独り暮らしは寂しいけれど　誰に気がねもするじゃなし
望み任せて働けば　粗食の膳もありがたく
あすの苦しさたのもしや

今日もあれこれ郵便物に　君が便りはみ仏の
慈悲に生かされ候と　尊き教えはそのままに
我が身に降らす法の雨。

夢見坂

夢見坂とはどなたが云うた　誰も云わないこの坂道は
折々夢に現れて　私が一人で歩く道
ゆうべも見たよあの夢を

山に行くたび心にかけて　夢で見たよな坂道探しゃ
森や林があざ笑う　ここは人の世現世だよ
夢の国などあるものか

釈迦のなさけの導きだろか　あの坂道を向こうにくだりゃ
三途の川に降り着くと　こっそり教えてくれたのか
幾たびも見る同じ夢。

★　昭和６２年かる　ずっと新しい詩を書いちよ人がおったで。こん詩を書いちくれたしは　大分かる野津原ん自然や美しい川人情に誘われち　こきー移っち来た。好奇心が旺盛じ何にでんも挑戦する　楽器に秀でちょつたき旋律もいい。そげな人と心が通じあうしもあっち　こんしの詩にゃ殆ど曲がちーちょる。折々にそん唄ぅ自分じ時にゃピアノ　今日は大正琴。音色に託した気持にゃ優しい心が　込められち自然の中ぇゆう溶けこんじょる。姿勢んいい若ぇ頃ん写真にゃ　美人形の横顔に微笑むんが苦労をちっとん　感じさせんき美しい詩が生まれるんじゃろう。

人にゃそれぞれ宿命がつきまとうけんど　ほんなそりゅう愚痴ん言うてん仕方ねえ。いいほうに転換すりゃそきー芽も出りゃ花も咲く。そげー思うが。

大分西国巡礼唄

古くからあった巡礼の行事が　昭和半ばになって復活したもので挟間　野津原　庄内　大分などにわたる　『大分西国巡礼』として毎年３月１０日から４日まで。その中に野津原にも札所があって巡拝されているが庄内から　１５番目になる栗灰の善福寺がその札所。

“観音を巡りて鈴をくりはいの
　　善くふくでんを野地にひらきし“

１６番目には今畑の福田寺がその札所。

“昔より今はた開くふくでんの
　　渡りの船をあとに見なして“

そして１７番は谷村酒野の　酒泉寺になって巡拝が続く。このように巡拝の際には　その寺ゆかりの『ご詠歌』が唱えられ　仏との結びつきの縁を受けたのだろう。

１番札所…庄内　大龍寺から…３３番札所…石城川　石城川寺。

田植え唄

腰の痛さにこの田の長さ　四月ヨイヨイ五月の日の長さ
サンヤレ日の長さ　四月ヨイヨイ五月の日の長さ

紺の前かけ松葉の模様　こんにヨイヨイ待つとは是非がない
ヤレヤレ是非がない　こんにヨイヨイ待つとは是非もない。

書生さん

書生さん橋の欄干腰うちかけち
月の明かりじ文を読む
雲がリンキしち月かくす　雲がリンキしち月かくす
さのさ

てまり唄

あんたかたどこサ　肥後サ
肥後どこサ　熊本サ　熊本どこサ
せんばサ　せんば山にわタヌキがおってサ
それを猟師が鉄砲で打ってサ　煮てサ
焼いてサ　食てサ　うまさのさつサ

ゴンザくどき

肥後の熊本おやなぎ町に　ヨイトテ　ドッコイセ
ごんだどのとて徳者がござる　アラヨヤサノセ　ヨヤサノセ

徳者すれども世に瀬がござる
かわいい子供が姉弟がござる

姉のオヨシは１３の年
弟松二が当年七つ

七つ時にてカカ様病気
長の病気で相果てました

どうせあとよりもらわにゃたたぬ
言うてもろうたが久留米のご城下

ご城下育ちでキリョウはよいが
キリョウノよい程心がじゃけん

来るとごんざに申せしことは
わしの願いは他ではないが

あの子姉弟殺そうじゃないか
あの子姉弟殺しておいて

わしとお前と楽しょうじゃないか
言えばごんざが申せし事にゃ

あのこ姉弟殺さんとても
二年三年たちたるならば

姉のおよしは縁にもつきょうど
弟松二は奉公に出して

言えば女房はそれ聞き入れず
わしに今日から暇くだしゃんせ

好いた女房にゃ暇とはならぬ
それをオヨシは寝ざめに聞いて

松二松にと細声おこし　ヨイトテ　ドッコイショ
松二ようきけ大事な事ど　アラヨイヤサノセ　ヨイャサノセ

今市錬迫地区で供養踊りとして躍られた　盆踊りの口説きです。
熊本周辺の唄のようで　参勤交代などで入って
来たのか。伝承文化として最近まで躍られてい
た　口説き踊りのひつと。

さるまる太夫

さるまる太夫は奥山の　チリツンテンシャン　アラヨイショヨイショ
もみじ踏み分け鳴く鹿の　ソレーソレーヤットヤン　ソレサ

往来山で鹿が鳴く
寒さで鳴くか妻呼ぶか

寒さで鳴かぬ妻呼ばぬ
明日は小山のオシシ狩り

来るか来るかと川下見れば
川にゃ柳の影ばかり

二度と持つまい川ごしなじみ
空がくもれば気がもめる

心せこ寄りゃ川せきなされ
川にゃ想いの恋《鯉》もおる

踊り踊るならしなよく踊れ
しなのよいのを嫁にとる

踊る中でもあの娘がいちよ
あの娘育てた親見たい

あの娘よ娘じゃボタモチ顔じゃ
きなこつけたらなおよかろう

揃うた揃うたよ踊り娘が揃うた
秋の出穂よりよう揃うた

わしとお前は茶碗の水よ
誰が混ぜても濁りゃせぬ

わしとお前はおくらの米よ
いつか世に出てままとなる

山で赤いのはツヅジに椿
咲いてからまる藤の花

恋し恋しと鳴くせみよりも　チリツテンシャン　アラヨイショヨイショ
鳴かぬホタルが身をこがす　ソレーソレーヤットヤンソレサ。

美声が響くように口説く独特な節回し　太鼓　三味などが入るともう最高。若い娘たちの肌は汗がにじみ　屈強な男しの姿に魅力とダブラセて　夏の短い夜が更けて行く。

盆の送り火に先祖が帰る……せめて皆で何はなくとも見送る風情が　継承されながら若い人たちの心の中に　恋とともに芽生える故郷を愛する気持ちは　崇高な優しさとともに生き続けている。

方言調査の収拾にあたり　多くの皆様のお話や提供いただいた資料から　使わせてもらう唄にはすでに　過去のものになってしまったものや　聞き取れない唄も沢山あり残念でした。せめても１０年早かればと惜しまれてなりません。でも今回の『方言集』に盛り込まれた　唄はこれからもきっと記憶の中で生き続けて行くものと信じています。ご協力くださった皆様に感謝　他界されました皆様のご冥福ご祈念申します。

方寸紙芝居

江戸期の生活、経済、世相から

１０両盗むと首が飛ぶ…死刑…ち言う時代じゃつた。じゃもんじゃき　頭んいい泥棒んやたー《いいんかん解らんけんど》　９両３分２朱盗んじ処刑ゅ免れたち言う。

油ぁ貴重品ん一つじゃつた。明りんねーなー夜は何にも出来んきちっとでん　灯をともす。菜種油は米ん約３倍ちいよった。そじもんじゃき４つ《午後１０時》頃にゃ　もう寝よったらしいし木戸もしまっちょつたち言う。
ローソクん利用が多かったのん　油より安かったきじゃろう。ローソクにもいろいろあっち　安物んなフスボッチ　かがり火がゆう立ちのぼるき　ソコラソンゲがまっ黒ぅなりよった。ハゼぅゆう植えちゃるんなこれじ　ローソクん原料にしよったけん。生活ん知恵じゃろう。

時計がねー頃ん時間な一日ぅ二時間区切りぃしち　呼び名も数字じ言よった。一般にゃ６つを『明け６つ』ち言いよった。冬んごつ夜明けが遅いと明けが『６つと…５つん間』に　なることもある。こげんふうに夏と冬とじゃでーぶん感覚も　ちごーちょつたんじゃなかろうかなー。

9つ	8つ	7つ	6つ	5つ	4つ	9つ	8つ	7つ	6つ	5つ	4つ	
夜中	二時	四時	六時	八時	十時	正牛	二時	四時	六時	八時	十時	
子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	
			明け						暮れ			

人間な聞いたり見たりしてんすぐ忘るるんじゃが　手じあたったり　肌じ体じあたったり体験したこたー　なかなか覚えちょるもんじゃ。そじゃもんじゃき　喧嘩ごしなっち悪口言うてん　そりゃ忘れてん　叩いたりこずいたりしたなー　やっぱゆう覚えちょるもんじゃ。……我が身をつねっち人ん痛さぅ知れ……ちまさにそん通りじゃなえ。

ところじ今市ん道筋ぃ店が並ぅじょるが　１００円コーナーち言うち大なり小なりじ　みなじ２２軒あるんで。まあそれぞれん店ん味があるき　好き嫌いもあるじゃろうが。若いしがおる所やら　年よれしん居る所やら。季節物ぅ並べち待つちょるき　どうど寄っちよくれ。

あん石だたみん数ぁ３３００個あるんと。小学生がゆう数えたらしいが　ひょんな格好ん石やらヒラベッテー石やら　けっくしゃ見ち見ると面白いわな。霜解けがひじい　泥道じ品がわりー　雨じ道ん泥が流るるき　そげな訳じ近所んす麦岩谷かる　おおけなこつーん人夫じ運ぅだち言う。そん頃んしはまー大事じゃつたことじゃろぅな。

子供が石だたみん上ぅカランコロンち　ボックリ下駄ぉ履いて通るなーええらしいもんじゃ。そりゅうよくるごつ馬子唄ぅ歌いながら　馬子が荷物やら人ぅ乗せち行き来する。のぞかな街道じゃつた。そげな時代ん面影がちっとんづつ少のぅなるなー　さびしいけんどこれも時代ん移り変わり。仕方ねーんじゃろう。

おてもやん　あんたこん頃嫁入りしたではないかいな
　嫁いりしたこたしたバッテン　　御亭どんが菊石面たるけん
まーだ盃ァせんダつた。村役蔦役肝いりどん
　あんしとたちが　おらすけんじ　後はどうなァと
キャーなろたい……

しいたけん種駒を原木に打ち込むなー　昔に比ぶりゃーでーぶん改良されちゆうなった。昭和んはじめん頃ぁ原木ぅ　木槌じ叩えーちしいたけ菌ぬ広めよたもんじゃ。苦労がつきもんじ出らん年もあつち　ばくち作品ち言われよった。今じゃ菌もゆうなったし技術もいいき　まぁ特別ん事がなけりゃ心配なし。じゃが天気ぎっかりゃもうどげーも　ならんこればっかりゃ……。

松下幸之助さんが他界さるる前に　ゆう皆に言よった。そりゃ年ぅ取ってんぼけたら悪いでーち。長生きしなーとも言うちこげな歌も　書いちゃつた。

年を取ったらでしゃばらず
にくまれ口に泣き言に
人の陰口愚痴言わず
他人の事はほめなはれ
聞かれりゃ教えてあげてでも
知ってる事でも知らぬぬり
何時でもアホでいることだ。

勝ったらあかん負けなはれ
いずれお世話になる身なら
若いもんには花持たせ
一歩下がって譲るのが
円満に行くコツですわ
いつも感謝を忘れずに
どんな時でもありがとう。　以下省略

俺は偉いんじゃ…自分じ言うてん人はどんくれー　認めちくるるか　そりー現職ぅやめちしまゃー尚更んこと。裃ぅ早ぅ脱ぎ捨てち皆ん世界に入らんと　世間ぬ狭ぅ歩くこちーなる。たった一度きりん人生じゃき　好かれんでんいい嫌われんごつ　年寄りぃならにゃ大けな損害になる。社会の恩返し最後ん花ぅ咲かする機会ど。

５０年前ん古い諺　名言　名句　あれこれ

悲しゆぅ過去を振り返ったりせんこと　そりゃーもう決しち帰ったりせん。現在に望みぅ託しち　おじがらんじ元気じ未来を迎ゆること。

一日に一字を記録すりゃ　一年じ３６５字儲けたこちーなる。一夜に一時ぅ無駄にすりゃ　１００歳ん間に３万６千時間ぬ　失うこちーなる。

子供ん心臓はとてん楽に働くき　子供んやたーいっときもジットしちょるこたー出来んごたる。

江戸時代ん郵便を持っちん飛脚は　江戸かる…大阪ん間を普通１月じゃったち言う。

機会が人ぅ見捨てるこたーねーけんど　人が機会を見捨て見失いする事が多いごたる。

人間は心が愉快じありゃ　一日じゅう歩いてんクタビレンけんどん　心に憂いやヨダキー気持ちがありゃ　ほんの一里でんタビレチしまう。人間の一生もこれと同じじ　人間ないつも明るぅ愉快ん気持ちじ　歩くんが一番いいごたる。

葉末に光つちょる一滴ん露にも　金剛石ん美しさがある。汗にまみれち働く農家んしの顔にゃ　華やかん王冠と威力ぅ競う　輝きがある。

同じ石に２へんもヒッカカルな。同じ失敗をするごたるなー進歩もねー　無意味ん人生じゃねーかな。

こんだ　もろもろん話かる　ちょこっと

野菜ん旬　ハクサイ…１２月。ラッキョウ…７月。
サトイモ…１０月。エンドウ……５月。

歌った人の年令　旅の夜風…３５歳。りんごの歌…２７歳。
カチュウシャ…５９歳。浪花小唄…４４歳。
籠の鳥…５１歳。

魚の旬　タイ…５　６月。イワシ…９　１０月。
ブリ…１２　１月。サヨリ…２　３月。
キス…８　９月。

果物の旬　イチヂク…９月。ザボン…１２月。モモ…７月。
アンズ…６月。ネーブル…５月。

花の旬　ヒヤシンス…３　４月。ナデシコ…５　６月。
ホウセンカ…６　８月。ケイトウ…８　９月。
菊……１０　１２月。

花ごよみ　サザンカ…１月。ツバキ…３月。モクレン…５月。
ザクロ……６月。サルスベリ…８月。

こげんごつ物にも自然にも人間にも　旬がある…つまり時期季節じある。生きちょる以上はそん機会　時期をうまいぐあいに生かしち　暮らす　好誼する　生きがゅう感ずるんが幸せち　言うもんじゃろう。こん頃は季節も時期もねーごたる　世相ん中じ心ぁちゃんと　いい季節　時期　生きがいがありてーもんじゃ。

子備品文化

『団七おどり』……竹刀踊り……野津原ん場合

民謡伝承踊りとしち古ぅかる野津原に　古老たちぃよっち伝承されちょつた。そりゅーこんど小学生が『伝承文化継承活動』としち　地元ん老人クラブんしなんかを中心に　調査収拾聞き取りしたもぬー　指導なんかしちもろうち　方言劇と共に発表した。普通一般にゃ『団七おどり』ち言うが　こりゃー敵と狙う志賀団七を姉妹が無事に　討ち取り父の恨みを果たす　物語じゃつた。

口説きが敵討ちち言う内容かる　小学校生徒にはそぐわん理由かる　地元ん『七瀬馬子歌』かる取り入れた　口説きを小学生のコーラスぅバックに　地元歌手が歌ぅちょる。

元の口説きは　国は奥州　仙台の国　サノヨイ　サノヨイ
頃は寛永１４年にて　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ。
ここに　説き出す　団七の　サノヨイ　サノヨイ
いわく因縁　口説いて見ましょう　サノヨー　ヤセ　ヨーヤセ。

別の口説きは　国はご畿内　河内の国よ　サノヨイ　サノヨイ
カワチ河内国では　のぶよし長者　サノヨー　ヤセ　サーヤーセ。
末の世を取る　春徳丸は　サノヨイ　サノヨイ
年は１５で　まだまるびたい　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ。

踊りの由来　百姓与茂作が娘たちと田んぼん草取りぅ　しよった時ちょうど通りあわせた　武士ん志賀団七に投げた草があたり　袴を泥じ汚しちしもうた。たまがった与茂作ぁ地べてーひれ伏しち　断り言う。

そげんこたー言い訳にならん　ち腰ん刀ぅ引き抜くと笠じよけたのん　間にあわんじ娘たちん目の前じ　ムゲネー最後になっちしもうた。振り向きもせんじ引き上げた　団七ぅ二人姉妹は恨めしぅ見送り　敵討ちする覚悟を決める。

艱難辛苦ん末に姉は『鎖鎌』を　妹は真剣の訓練ぬ積み重ねち　お許しをもろうち敵討ちぅする事ぃ。そんイデタチが白衣に鉢巻きの凛々しさ。めざす敵ん団七も盛装。

踊り　団七が中で真剣を持っち両方かるん　鎖鎌と真剣にやんがち力尽きち　めでたくあだ討ち本懐となる。……そげなストリーになっちょるんが　『団七おどり』じゃ。

野津原ん場合は　真剣やら鎖鎌んかわりに太刀《踊りじゃ竹で作った竹刀》で　立ち向かう踊りじ　竹刀の先約３０センチが割っちあるき　叩くたんびカチカチち鳴るき　音んリズムとコーラスが交差しち　耐えなる音色ぅ響かせる。まさに『竹刀踊り』じある。

歌　野津原ん場合は元歌が敵打ちん為ぃ　現在風にアレンジした　『肥後街道…七瀬馬子歌』かる　取り入れた唄を利用しちゃる。

肥後か府内か　一の瀬渡りゃ　サノヨイ　サノヨイ
お国訛りが　なつかしい　サノヨー　ヤセ　ヨヤーセ。
馬に揺られて　旅する人にゃ　サノヨイ　サノヨイ
馬子のひとふし　心に染みる　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ。
秋葉越えれば　火伏せの森に　サノヨイ　サノヨイ
フロー煮えたか　諏訪の灯見える　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ。

『おばんな　団七踊りしらんなえぇ』『やーそげー言ゃ昔踊った事があったごたるのぅ』　生徒が調査に行くと村ん年寄りしが　気持ちゆう相談に乗っちくるる。なんさまでーぶん昔んこつじゃきソッココしか想い出せんごたる。そんうち近所しもよりでーたらワアワア言ううちーでーぶん　想いでーたんじゃろう踊りぅ踊るしもあっち。

“　国は奥州　仙台ん国　サノヨイ　サノヨイ“

口説くうちーでーぶん　そん頃が甦ったんか　手振り身振りん仕種が弾みでーたんじゃろう。『やんな口説いみよ　ソスリャ皆が思い出すど。

子供に誘い水が向けられたもんじゃき　年寄りじゃきち遠慮しちよられんごつなった。『竹刀がガチャガチャ音ぅ立てち　そりゃーけっくしゃ賑やかかったのや』『そりーお前どうは何ちゅうてん品がよかったわな』『そげんこたーあるめー』　褒められたんかおだてられたんか　調子に乗っち来たもんじゃき　子供たちも喜くうじ帳面に書きよる。

口説きぅ誰か書いちゃんなー　『よし俺が想いでーた分ぬ書くどコンゲヤレ』　子供が書いちょるんぬ取り上げち　かな釘ぅ曲げたごたる字じ書きでーた。皆がよっちたかっち教えちくるるき　助かる『竹刀踊り』ん　調査収拾。生き生きしちょる子供ん目にゃ　もう踊りん舞台が広がっちょつた。

“せめて一言礼言いたいと　サノヨイ　サノヨイ
　尋ねた町の　陽は西に入る　サノヨー　ヤセ　ヨヤーセ“

肥後ん糸屋ん吉兵衛さんが　京からん帰りに世話になった　馬子ん五助さんに一言礼を言いたいばかりに…七瀬馬子歌口説きから。

子供たちん努力が実を結んじ久しぶりん　復活した『竹刀踊り』は　舞台狭ましと披露された。自分どうじ調べち習い覚えた古い芸能文化はいつまでん心ん中に残るじゃろう。いい想いでになっち大きゅうなってん　懐かしい学生時代が方言文化とアイコしち。

子供と懐かしい菓子

1　水飴ぅ釘に引っかけちゃ引張り延ばす　そん繰り返しじ晒されち白ぅなる。適当に延ばし丸めた飴ん棒を　首にかけた針金じチョキンチョキンと　切り落とすと行儀ゆう台ん上じ並んじょる。区切りがちーたらこんだ丸めち揃ゆる。キザラを敷いた中ぅ転がしち適当に　飴の化粧をキザラじ仕上げち　はい…一里ん飴ん出来上がり。

口に入れちょくと一里ん間はノーナランち　昔かる一里玉とん　イチリンダマとん言う。子供がめってー貰わん小遣い１銭じ　買いに行くと紙袋に１０入れちくれた。『お前ゃあっこん子じゃの　親父ゆう似ちょるのー　ほら１つオマケじゃ』　気さくに　おまけもクルル店んしに『おーきに』　飛うじ帰る子の心は　胸ん内は天にも昇るごつ嬉しい。

2　小麦粉に卵ぅ入れち練ると　これかる焼くせんべいが出来る。庶民的じゃつた『せんべえ』　年寄りだけじゃねー茶おけにゃ　もう高級品にもなっちょつた。程いい色に焼くるなー長年の感　鉄板ぬぱっと開けちつまみ出し　樋形に乗するとじーと乾くなかめー程ゆう曲がる。芸術的ん作り手法が長年取り組んだ　腕前ん証じゃろう。遠ぅまじ焼く香りが流れち腹に　しみいるごたる。中にゃラッカセイ　アオノリ　砂糖が入ったり　つけたりしち素朴な中でん　憎らしい姿。

『おごめん　せんべーくんなー』『あーい　ありゃ　お使いなぁなにごとかえ』『しらんに　牛見がくるんと』『えーどきーえお前かたじゃねーな』『……』『そうか　前んしじゃの』『……』　話が弾むが子供にゃ　ワキャワカラン』　包んじくれたせんべいを　クズレンゴツ大事に抱きいち一目散につーだ。

3　破れまんじゅうたー白い皮かる　ところどころ中ん餡が見るるぬー言う。薄皮がゆう出来るもんじゃが　そりゃヤッパ専門ん、商売じゃき　たいしたもんじゃ。湯気じ向こうが見えんゴタル奥かる　匂いがいいき足が止まっちしまう。メッテー食うこたぁねーけんど　時時町かる来るシガみやげに　ソゲンシガ来るぬー待つちょつたら　今日は来るち話しよる。

子供ん気持ちゃもう損得なし　欲張りじゃねーけんど食い意地見たような。『おごめん』『……』『おりますか　針屋ですが』　慌てち帰っちきたハァジョウが　手を洗うのんそこそこに前座に出ち来た。子供は奥じお客んみやげがまだかち　目を睨みつけちまっちょる。

『これ　つまらんもんじゃが　いつもん』　いつもんち聞いた途端に子供が　生唾ぬーだ。ゴクン…そげな音が家中に響くごたる　赤裸々な感触でんあった。『そげなーこつーもう　いいいにすまんなー』　ハァジョウん心苦しいごたる　それでん影じコソコソしち待つちょる子供ん　気持ちにゃもう早ぅ受取っち食わせてー。

『ほら　お客さんが　おみやげクルルと　あとじワケチャルきそっち　おいちょきなー』『皆オルンですか　あげてください』　お客が気を効かせち言うぬー　待つ間もの一飛び出ちきた子供たち。お客さんも心得たもんじ　自分じ包みぅ開くると子供たちに　平等にわけちゃつた…まっ白い　まんじゅう。

トイモ飴

ゆう売りにくる『トイモ飴』ぅ　内緒じ買うちくれち学校かる帰っちくると　チシワッチちっとんづつくれよった。どきー隠しちょるんか解らんけんど　歯にひっちーち中々取れん事もあった。トイモん味がするき作ったんな　トイモじゃろうが子供ん食い物にゃ待ち遠しいもんじゃつた。

『やんなトイモ飴食うたの』『や　どしち解ったんか』『解れーじゃ　息がクセーじゃねーか』　息ぅするたんびトイモん匂いもツイデに出る。口ん端ぅ黒うしたトイモ飴ぁ懐かしい　子供ん心ぅ昔に思い出させちもくるる。もう来る頃じゃち待つちょる頃にゃ『今日はイランナ』ち　カルウチやっち来る。

アラレ

正月餅ぅツク時ぃ作るアラレ　カワカシチしまい込うじ時々にゃ煎っち　茶おけにしたり子供ん腹足しにゃ　格好ん食い物じゃつた。オトシ入れたぬー汚れた手も構わんじ　つまみ出ーち口ぃほたり込むと　人が見ちょろうが見ちょるまいが　いかにもうまそうに食ぅぬ　子守する背中ん子が手をサイダス。

『そうじゃつたのーお前もいるんか』『いる』二つ返事に握った手じ頭越しやると　ブクん端ぅせりのけち手じ取る。コボクレが首ぃへーたもんじゃき　ぴくっちすりゃ背中ん子がたまがる。二人じむしゃむしゃ……そん音が子供ん幸せん育ちぅ見するごたる。達者じ育つきーこす親も安心しち仕事ぅする。

貧乏しちょつてん時時んイノチキが　さかしい暮らしがありゃー子もいつんなかめーか　太っち行くもんじゃ。夏まじゃアラレも食いもんの足しになっち　それかる先にゃコガシが出来る。食い物がありゃ子供ドウシでん　さかしゅういつんなかめーか育つもん。

露天に並ぶ子供の菓子

ガス灯に照らされて並んだ駄菓子には　子供の夢が盛り込まれている。祭り太鼓が響き神楽に有頂天になった頃にゃ　しんけんに握った小遣い銭もサヨナラん時。何ぅ買おうかち思案したてん　知れたもんじゃが買うとなりゃ　やっぱ迷ぅちしまう。コンペイトー　紙ニッケー　くじンキャラメル　そげなんにゃ使う材料ん気持ちぅ考えち　気持ちぅ感じ取っち職人な菓子ぅ作るち言う。

クジぅ引こうち店ん前に立つと　『ほら　これが一等になるんでちゃんと見ち　ほらここに入るるき』　調子ゆう小さな包みぅ下に入れ　大きい包みをそん上に乗せた。たしかあれがそうじゃつた…ち銭ぅ渡すと　そりゅー取った。しょわーねー一等ちもう決めちじっと開けた。なんのこたーねードベ等じゃつた。

子供にゃそげなカラクリは解らんけんど　それまじん夢はあっち楽しんだ。夜が更けち神楽も蛇きりになった。もう帰らにゃ遅ぅなる。夜道ちゃ昼間たー違う感覚になるきち　言われたんぬ思いでーた。トギに『よい帰ろうや　まっ暗ぅなっちしもぅたど』『ほんな神楽もういいか』『神楽また見らるるわい』『そぅじゃのー』　夜が更けち帰るしも多くなった。

子供ん世界にゃ子供ん夢がふくらんじょる。そげな一つ一つん中じ育ち成長しち行く。駄菓子ぅ欲しがったのん　背中ん子にやったのん情愛がありゃこす。そげないのちきん中かるこす　人間な育ち大人になっち行くんじゃろう。口んはとー黒うしちヤシボしよったんが　若い別品になり男前になる。器量よしが嫁ごになっちアルクのん　嬉しいもんじゃ。甘いもんな絶対必要じゃがあんまし　取り過ぎにゃご用心せにゃなるめー。健康こす何よりん幸せち思うきなえ。ほんなな一又いつか話そうえな。五助さんも今日どま遊びくるかんしれんで。さかしゅうしちょんなーえ。

雑居房

『カット１００コマ』

趣味　があるなー生活にも潤いがあっち　暇暇に見る聞くもんにも好奇心が湧く。ひょんな事かるサラサラち書いたんが　人ん目に触るりゃ人ん心ぅ魅きつくる。『誰書いたんな』『うっとーで』『へーぇ　いつん中間ぇこげんこつー』　もって生まれた素質があったんか　それとん自分がそげな取り組む　気構えぅ身につけたんか。幸せ人生にゃ得になり宝にもなる。

こんだ店ん分も書いちと所望さるりゃ　嫌とん言えん同じ仲間ん売店。そきーちょこっと書いたんが張られちょると　こんめー店でん明るぅなり並べた野菜が　瑞々しゅもなる。お客さんが入れ替わり出入りする　そげな片隅じ小首かしげたごつ　表情豊かんカット画は人ん心ぅ癒しちもくれ　時にゃ話ん種にもなる。

農家ん仕事にゃ区切りがねーけんど　自分じ区切りをつけちそん暇に　サラサラち下書きしたのん夜更けん　時間に仕上ぐる楽しさ…『楽しいもん』ち口癖に言う笑顔が　没頭するもんがある幸せぅ全身かる　さらけ出しちょるごたる。あれこれ雑誌冊子の片隅を飾るカットは　装飾効果の役者でんある。

★　うっとどー…わたしたちは。こげんこつー…こんなことを。そげな…そんな。こんだ…こんどは。そきー…そこに。ちょると…張ってあると。こんめー…ちいさな。さらけでーちょる…すべてを見せられるような。

『恵まれた放送』

方言調査ん仕事ぅやりはじめち　資料を分析するなかめー読み方ん　コツも覚え民話なんかん感情ん込められた　朗読がけっくしゃ上手になった。そげな自信が自分の能力開発にん取り組む　人ん力

たーおじいもんじ　いつんなかめーか『ケックシャヤルワイ』　ちたまがっちしもぅた。

『こんだ放送じ対談をお願いしたいんじゃが』『いつな』『月末に打合せに行くき　放送は来月ん５日』『そうな困ったけんどなーあんたに言わるりゃ仕方ねーなー』　顔なじみんキャスターに返事しち　『忙しかろうが出らにゃ…適役じゃき』　強引に押しつけち打合せの上　当日本番。

はじめちん体験にチョィト面食らうたごたるが　そこぁそこじ急場つくろいも要領ゆう。落ち着いたもんじ何とか無事録画　そん日ん夕方にゃもう放送になった。ほんの１５分ぐれーん放送でん気持ちゃ　どうでん１時間なあったごたる感触。そげな本番でん大胆じ切り抜けたなー　やっぱ物怖じせん気構えがあったきじゃろう。

繊細じ博学に物事ん分別ぅ弁えち取り組む　そげなしのじょうが素人集団じ　ここやんがち１３年あまりん調査収拾。『今残しちおかんと消滅する』危機を食い止めた。そん影じこげな機会に巡りあわせた　人の運命とは又不思議な人生でんある。何年か先になっち語り草の人生ん足跡にゃ　仄かん夢が甦るんでは。

『ねっちすりがう』『ごらいたー』『トッパイ』『あんげさね』『ゆさんご』　とまぁ難しい方言も多かったけんど……それも調査したしの苦労が実った証でんある。ひょかっと思いでーたごつ方言ぬ使うと　なんか心ん中まじぬくぅなっちくるな　それだけ方言が生活用語ち　大事に使われちょつたきじゃろぅ。

★　けっくしゃやるわい…けっこうやるじゃない。そこぁそこじ…それはそれなりに。ぐれーん…くらいの。そげなしのじょうが…そんなひとたちばかりが。やんがち…やがて。ねっちすりがう…右と言えばひだりと。ごーらいた…汚い犬。

★　トッパイ…とうふ。あんげさね…あちらのほうに。ゆさんご…ぶらんこ。ひょかっと…突然に。ぬくぅなっち…暖かくなって心まで。

『２キロの米買い』

学校かる帰ったら父親はまだ寝こんでいた。母親は勤めがあって一人養生していた　父親ん枕許ち行くと安心したごと『お帰り』ち、顔見合わせた親子。娘じゃきやっぱ子供でん苦になるんか　『何か用事ねぇー』　顔ぅ覗きこむごつ言うと　『すまんが米ぅ買いに行っちきてくれん』　『……』娘はきょとんとしち　戸惑うた。

今まじ米買いなんか行ったこともねー。袋があるき２キロじいいわい　重てーき』『はい』　素直に返事しち袋と金ぅもっち出た。こげな使いぅさせたこたーねー父親　今思うと使いや経済んこつーさせる　そげな躾も必要じゃったち思う。袋ぅさげち近くにある米ん配給所。『おご免米ぅ２キロください』『ありゃ　お使いなー』

配給所んばあちゃんが愛想ゆう米ぅ計っち　袋に入れちくれた。見送った後ろ姿にどげー思うたか　子供にはわずか２キロでん重たい荷物。それでん父親が病気じゃき　食べ物じゃき　母親が仕事じゃき　今は自分がせにゃならん。幼ぅでん弁えち使いに行き買う。子供にしち本能が加勢するんか　ちゃんと自分の仕事をした娘。

家庭を切り盛りする本能は強いもん。娘ん果たした役目は男顔まけん　勇気ある行動実践でんあった。

★　じゃき…ですから。くれん…くれない。いいわい…よいかり。こげな…こんな。そげな…そんな。せにゃならん…しなくてはならない。

『歌つくり５０年』

野津原が真剣好きじ娘たちとん暮らしん　合間に手頃ん家をセンギスルト　一人住まいに趣味ぅ生かしち　健康づくりん傍ら作詞ん活動。ち言うてん自分がん気晴らしん　趣味が卓越したスタイルじ新聞種になった。そりゅう見た趣味ん世界んしが　『曲ぅつけちあぐるで』ち　まぁこげんこちーなった。

それかるは物ん見方やら捕らえかたが　デーぶん違ぅち感覚が鋭いに一層　博学も加勢しち上達しち来た。材題はそこらじゅうにあるぬ　何でん片っ端かる使うもんじゃき　いくつでん素材が生かさるる。趣味はそん他にん　カラオケ　健康体操　趣味講座　老人大学　地区ん教養集会　何でん挑戦しち年ぅ感じさせんき　もうどげしゅうかち思うごつなつに　『青春年令』

とうとう自分が作詞しち曲ぅつけちもろうた　『歌詞集』ぅ自費出版しち　まあまあ元気に延長作戦中。どうでん聞いちみると５０年こんかた　作り続けち来たごたる逞しさ。女ん底力ちゃこげな所いも　脈打っちょるんかち吃驚しちしもうた。まさに優しい一面と歌つくりにゃ鬼神にでんなんのか。

巨大迷路が出来たところ…もう時のめに歌にしちょる。祭りがありゃ若ぇしがワキャガル格好が　すぐ歌になり曲がちーち自分じ大正琴に乗せちしまう。オルガンぬ弾いた事があるき大正琴なんか朝飯前んごたるツワモノじゃき　９０になってん『まだ若いぇきなぁ』　こん気構えが若さん秘訣か　人間かくありてーもんじゃち自分にも。苦労した過去は一切愚痴にせんのが　今を心豊かに楽しぅ生きるんが掟ち　自分に言い聞かせちょる心んシタタカサ。

長い人生耐え抜いじ生きた処世訓の　固まりぅ感じさせんあたり女性ん底力か。今日もうきうき作詞ん筆ぅ走らせよるじゃろう。

★　センギスル…捜して見つける。おぐるで…あげますよ。デーブン…だいぶん。そこらじゅうに…そこら近所に沢山。どげしゅうかち…どうしょうかと。こんかた…長い間に。こげな…こんな。時のめ…あっと思う間に。ワキャガル…ふざける面白おかしく。

『ちぎりえ』

一枚ん和紙かる幻想的ん作品が出来る。そげな芸術に打ち込む女の手先にゃ　優しい心ん結晶が作品ににじみ出るもの。初歩からん勉強にゃ苦労もあろうが　趣味が生かさるりゃ好きじありゃ上達も早ぇもんじ　一つ一つん作品が仕上がる度んび　胸の早鳴りぅさえ感じちくるち言う。

繊細な心が作品ぬ通じち現わるると　自信も湧いち挑戦する意欲が関ぅ切るごたる。『どげーな出来たな』　近所んしが出来あがるぬー楽しみぃ　今日も見にきたもんじゃき　茶の一つも汲まにゃなるめー。『なかなかむつかしいき　どんなわな』諦めと謙遜が喧嘩するごつ　返事に困るともうこげしか言いようがねえ。

えーと待望ん作品が出来あがった。われながらゆう出来たち思うたが　人ぁ何ち言うかしれんもんじゃ。それでん何か弾みがちーたごたる気分が　先急ぎさせちおるごたるぬー解っちょるんじゃが。『こんだちっとやえこしいわな』『そげー難しいえ　こんげやっち見な』　先輩んしがちょこっと顔でーちくれたき　見ちもろうたら『けっくしゃゆう出来ちょるじゃねーな』

執念たぁ恐いもんじゃが内容によりけり。優しい女の執念には見方聞き方捕らえ方によって各種　各様にも取れる。母性本能が似合う姿には　高貴な女性の底力も受け取れて　自分まで嬉しぅさせちくるるごたる。ここにも底力逞しい人生があった。

★　もんじ…ものですから。どげーな…どうですか。もんじゃき…ものですから。どんなわな…苦手で要領が悪いから。こげしか…こんな方法しか。ちーたごたる…ついたよう。けっくしゃ…けっこう。

『礼儀作法は七難隠す』

礼儀ん正しいしは見た目にも美しい。子供ん時かる苦労もあつたじゃろうき　自然とそげな風格が身にちーたんじゃろう。舞台出番の時にゃ裏方じ世話になるしに　心んこもった挨拶ぅ忘れんき部署んしも　真剣支えちあげにゃち思う。舞台が終わり片付きゅうする間隙ぅ縫うち　そそくさとお礼に回るそげな姿勢は　見ちょるとこっちまじ心が温こうなる。

先輩格とん関わりに時にゃ悲しい場面もあってん　ぐっと堪えちひたむきな我慢が出来るんも　内に秘めた優しい人を思いやる気持ちが　あるからじゃろう。どげな立場になってん自分が下積みだそげな覚悟じ世の中ぉ進む事が　人間性も評価されち高貴にも見えち　少々ん失敗も隠しちくるるもん。

心くばり気くばりぅ上手にした好誼は　そん人ん人格にも現われち　がいとー支援もしちもらいだす。『これお願いしていいじゃろぅか』『いいでそこにおいちょいて』　気軽く引き受けちくるる。『これしちくるる』『えーあい　そきーおいちょきなー』　同じ事んごたるがウーケン違いじある。

礼儀ち簡単に言うけんど　するちなるとチョイト難しいごたる。日ごろそげな気持ちがありゃすんなり　出来るんじゃが俄かツケバじゃ　チョイトお粗末になる。『お世話になりました』『ご苦労さま』　互いに交わす言葉一つにん温けー　心がこもっち周りんしたちまじ　笑顔がこぼるる。

★　じゃろうき…そのようでしょうから。ちーた…ついた。あげにゃち…あげたいと。こっちまじ…こちらまで。あってん…あっても。どげな…どんな。そげな…そんな。がいとぅ…たくさん多くの。ウーケン…たいそうな。たちまじ…ひとたちまで。するちなると…実行するのには。

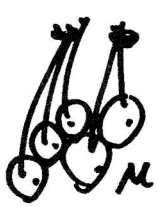
『育ちが現われるのも心がけ』

生まれ育った躾が身にしみくーだ　そげな生活でん気持ちが心がけが変わっちゃ　骨抜きになっちしまう。身なりぅきちんとした人にゃ　たとえ古着じあってん風格がいい。身たしなみがいいと礼儀が正しゅうなっち　付き合いん中かるにじみ出る個性が　品格まじゆうしちくるる。

『お願いがあるんじゃが』『なにな　誰かち思うたら』　几帳面な言葉つかいにタマガッタ。お願い事となりゃ普段の言葉じゃ失礼ち　親しい仲でんそこぁー弁えちょる。『どしたんな　改まっち』『原稿書いてほしいち思うち』『……』『忙しいち思うたんじゃがどうじゃろうか』『他んしのごたねーな』　きちんと挨拶しち頼む心くばりは　人の心まじ動かし支えてんくるる。

『いいで書いちょくわな』『よかった　どげーしゅうかち思いよったに』　後は打ち解けて話す内容の箇条書きで　原稿も粗筋なんかが組み立てらるる。きちんと礼を尽くす事じ難関も　無理な依頼も断われんごつなるもん。日ごろん人となりがここに来て表面に。育ちん親ん躾もあるが本人の日常生活じ　培う宝は生涯にどげな得まじも　約束させちくれもする。

物や金じゃねー人心ん礼儀こそ　大けん宝じあり急場を救うちもくるる　鍵でんあるごたる。そきぃ人間性が見直さるる　価値観も生まるるじゃろう。



★　しみくーだ…体にしみついている。あってん…あっても。ゆうしち…よくしたもので。なにな…なにですか。タマガッタ…びっくりした。どうじゃろうか…どうでしょうか。たにんのごたーねー…全く知らない人ではない。どげーしゅうか…どうしょうか。どげな…どうですか。じゃねー…ではない。

『イドラ咲く』

夏ん暑いんが憎らしいごつひじい　昼まじゃなんとかしたもんの昼かるは　もうイットキ昼寝でんせんと　体がいきつくで。よろけじゃねーけんど無理ぅしち　寝つやそれこす元も子もねーきなえ。『こいさ来らるる』　朝草切りん時言われたんが頭に　残っちょっち若えしん楽しい時間。

盆踊りん世話もさせられちょるき　それもあるけんど何ちゅうてん『会えるんがどんくれー嬉しいか』　娘ざかりん夜は昼ん仕事も忙しぅじダルけんど　そりゃそれじ又人にゃ言われんき。親父ん顔ぅ盗み見すりゃ怒ったごたるけんど　本当は一番解っちくれちょる。夜露が足ぅ濡らしちイドラん花が香りゆう　待っちくれちょるごたる川端。

『待ったんじゃろう』『いんにゃ　いましがた来たんで』　男ん上手な返答が何か嬉しい。『今日は暑かったなぇ』『ほんと　憎らしいごつなぇ』　声がだんだん細うなったごたる。湯上がりん濡れた洗い髪ぅじっと撫ぜちゃると　目ぉつぶっち寄り添う女らしい姿。やんがち自分がん主張を無理強いするごつ　それが女ん底力かんしれんが。

それじゃき女性が長生き出来る力ぉ　蓄えちょるんじゃろう。うまいごつ合わせち行くのんイノチキ上手ち　言うんかん知れん。若いしが抱き寄せた肩に夜風が涼しい　蛙ん声も楽しゅう。

★　ひじぃ…つかれる。いきつく…病気をするように。よろけ…病身。こいさ…今晩。どんくれー…どのくらい。ダルけんど…つかれるけれど。イドラ…野バラ。いましがた…先ほど。やんがち…やがて。

『盆踊り』

若いしの世話じ盆踊りがあっちこっちじ　はじまったが浴衣が日頃んノコギンと違うち　晴れがましい。嫁に来ち子供も太った所が器用さもあっちか　盆踊りん世話をしちくれなーち年寄りぃ言われた。昔しゃゆう踊ったごたるがコンコロは　ヨコゥチしもぅち淋しち言う。有志と口説き文句を集めちやるこちーなった。『物好き』ち言うしもあったが　そげんこつー苦にすりゃ何も出来ん。

口説きが集まっち歌も習ぅち練習も　昼ん仕事ぁはりこいっぱいせにゃ嫁じゃもん。昼んダリも忘れち『早ぅ並ばんな』　怒りたくじったかいもあっちケックシャ　皆上手になっち踊りでーた。久しぶりん盆踊りちヤウチゴッサン集まる。ヒキノベぅ作っちもっち来ちくるるし　茶を世話しちくるるしやら　時ん間ん練習が他ん所いも広がった。

やりでーたら中途半端が嫌いな性格が　上々ん成果になっち年よりがコンゲムシシウ喜くぅじ　済んだあたー皆かる褒めあげられた。嫁に来ち涙流した夜が嘘んごたるコイサん　嬉しさに涙がこぼれ落つるごたるぬ　エート堪えち茶をよばれた。取り組んじよかった自惚れと自負心も　それが女性ん底力ち言うんか。影じ頑張ったしん笑顔がふっと浮こうだ。

★　のこぎん…野良着。くれなーち…くださいと。ヨコーチ…休んで。ダリ…疲れ。ケックシヤ…結構。ヤウチゴッサン…家族全員。ヒキノベ…ヤセウマ。やりでーたら…はじめたら。コンゲムショウ…真剣に。

『口説き唄から』

★　ホーチョ　ノベノベ　今夜の夜食　チリツンテンシャン
アラヨイショヨイショ
早くのばなきゃ　夜があける　ソレエヤソレエヤ　アトヤンソレサ。
盆の１６日　おばんかて　行ったら　チリツテシャン
アラヨイヨヨイショ
なすび切りかけ　フロー煮染め　ソレエヤソレエヤ　アトヤンソレサ。
歌え歌えと　せきたてられて　チリツンテンシャン
アラヨイショヨイショ
唄がでらずに　声が《肥が》出た　ソレエヤソレエヤ　アトヤンソレサ。

★　急ぎ急ぎて　み墓に参る　ヨイトセドッコイセ
先のみ墓に　両手をついて　アラヨアサノセ　ヨアサノセ
先のかかさま　願いがござる　ヨイトセドッコイセ
わしの願いは　他ではないが　アラヨアサノセ　ヨアサノセ

わしと松次は　今日殺される　ヨイトセドッコイショ
助けたいのは　弟の松次　アラヨアサノセ　ヨアサノセ
わしの命は　いとわねど　ヨイトセドッコイショ
言うてかかさん　ゆらゆらと　アラヨアサノセ　ヨアサノセ

★　来ませ見せましょ　鶴崎踊り
いずれ劣らぬ　花ばかり　アラヨイショコラ　ヨイーヨイーヨ　ヨイヤサー
咲いた咲いたよ　踊りの花が
里の香りを　染めて咲く　アラヨイショコラ　ヨイーヨイーヨ　ヨイヤサー

方言草語

野津原ん『生活用語…無形文化財…方言単語』が　収拾を始めち７５００語ぐれー集まった。集大成にゃそげな昔かる現在まじ使われ慣れ親しんだ方言ぬ　一緒くたにしち『単語全集』ん冊子にする　そげな予定にしちょります。多くの人たちの支援協力と　資料掲載ん本なんかを使わせちもらったき　記録に残す事が出来て取り組んだ　巡り合わせに感謝もしています。

今回は人間の体に関わる方言を　まとめちありますが町内でも、地区によっち　言葉も違う面白さが出ちょるのも　方言らしい特じゃねーかち思います。

アタマンサラケン…頭ん一番上　クラゲーアタマ…前後に長い頭
アタマンケ……頭髪　アタマツミ……散髪
ギリ……つむじ　ハリアゲ……散髪
キジ……乱雑な理髪　ズク……頭…大きい頭
ウワシンドウ……調髪　ムコウズラ……おでこ

マイゲントノサマ……眉美男　ドングリメ……大きな眼
メセンリョウ……涼しい目　イロメ……情愛…色気の目
メガイイ……可愛い目　メガキク……感覚が鋭い
ホソビキ……細い目　メガテー……夜更かし強い
オクメ……奥底の目　メマイガ……立ちくらみ

フクミミ……福よかな耳　オチョボグチ……小さい口
ダンゴバナ……大型の鼻　ウソバ……親知らず
ヒミンヅラ……恥ずかしがり　クチヤカマシ……口うるさい
スケグチ……下あごの出た口　アゴタンサカシ……口やかまし
ワニグチ……大きい口　ヤンメ……眼病

ハマラメ……歯かる男性器かる目の順に老化現象が出るち言う
テヌグイベッピン……手拭いがゆう似合う女性は得人じある

アタマウツ……頭痛　ホヤケ……皮膚の斑点
ハナタレ……鼻が出ている　クチオモテー……しゃべり下手
ホテル……顔が熱くなる　バケル……化粧する
ベーロ……舌　ニイッタ……眠った
クチガキイチョル…口うるさい　ヌリカエ……化粧直し

ドンノクビ……後頭部の首　ミギカタ……右が利き肩
ゲンコツ……手の拳　イカリカタ……盛り上がり肩
ヒダリキキ……左手が利き手　ナデカタ……しなやか肩
ヒダリカタ……左肩が利き肩　サシアグル……上にあげる
ビビンコ……肩車　ウシロベッピン……後ろ姿美人

アシュウカク……汗をかく　テバエー……動きが早い
チョウサイボウズ……皮膚病　テヌリー……動きが遅い
ヒジデッポウ……悲恋打撃　テノヒラ……手の内側
ハレモン……皮膚病症状　ヤケハタ……やけど
スジガツル……筋肉症状　アセボ……あせも

テサキガキイチョル……器用人　チエネツ……突然の熱
ギッチョ……左ききき　ドバキ……嘔吐
スリムク……すり傷　ベーォアグル……嘔吐
ヒゼン……皮膚病　ハラセキ……腹痛
ヤセギシ……やせ形　アマユル……甘える

テボン……手の盆　ハトムネ……大きい乳房
テコボン……手の盆　デッパリ……大きい胸
テオタゴカス……手の筋痛め　ドンバラ……大きい腹
ホラケー……もろい　フフトッパラ……器量が太い
カキムシル……ひどく掻く　コケ……垢

セニマツガ……人の言う事には耳を傾けない　偏屈な性格

チノミチ……女性特有病気　ズウドー……胴回りが太い
コシュクネラス……腰を痛める　ハラガセク……腹痛
シッコ……子供の小便　クッシャン……くしゃみ
カンダン……女性の陰毛　デベソ……臍が出る
ツキノモンミル……生理始まる　コシュタゴカス……腰のねんざ

ドショボネ……腰骨ぶとい　ヨロケ……病身
ズーゴシ……しっかり腰　サカシイ……達者者
スイーモンホシイ……妊娠　オーコゲツ……とがった尻
キモガイル……胸焼け　シリベラ……尻まわり
ワズラウ……病気する　ヒンジリ……貧祖な尻

イノネ……股に出来る病気　チンドロカタ……血まみれ
アシガスクルル……足が疲れる　ヒドークム……あぐら
ヌルル……湿る…濡れる　タテヒダ……襞をたてる
ミモチ……妊娠する　ツブシ……ひざ
アシュウネズル……足をねじた　ヒダボーズ……ひざ頭

ユーロ……足膝下分の裏側　クンズク……下向く
サンワキ……出産後　チンポ……男性性器
オメコ……女性性器　シビル……もらす
シム……しみる　ムスコ……男性性器
カンノンサマ……女性性器　オサエボボ……手で性器を隠す

ヒビキレ……寒の手荒れ　ベタアシ……土踏まずない
ハイツクバル……かがみこんで　アシンハラ……足の下側
ハウ……はいはい　シャガム……かがみこむ
ハダシンバラ……素足　ヨコジリ……足を横に
クソ……大便　チャワン……陰毛が少ない

ドゥシュカベッピン……美人じゃあるけんどお高ぅ留まっちょる。

体にまつわる　心ん気持ちん動き　感情方言

ショウネガヒジー……根性悪性格　サンズンシタ……性器がある
マエカケベッピン……前かけ美人　アタリタガル……触れたがる
マンマサン……おとなし性格　モモグル……愛撫したがる
コシギンチャク……人にまつわる　サカヌギ……逆さま脱ぎする
ケツンスガコメー……けちんぼう　チカラモチ……強力

ションベンスル……放尿　ナデマワス……愛撫する
フンバル……足に力入れる　ヨキーナル……横になる
ユニヘール……入浴する　ヨコグルマ……無理押しする
ヒダリー……空腹　ネバリヅイー…根性…性根強い
オオゲナシ……大人　コンジョクサレ……根性が悪い

ムコーミズ……大胆不敵　シカタネー……あきらめ
ムリシャコ……強引に　ショウカタナシ……仕方ない
ネッチスリガウ……右といえば左　ソコイジワリー……根性悪
ケックシャ……結構　ヤラルル……やられて
カブサウチ……更に打つ　シッチクセ……勝手にせよ

オイシャサンゴッコ……子供遊び　ハエタカ……発毛したか
ズロース……ショーツ　サルマタ……男性パンツ
ベニサシユビ……薬指　センズリ……自慰
ユメヌラシ……夢見て濡らした　オイマワサレチ……追われ年頃
ヒキズリコム……引きぱり込む　ヒッカクル……彼女にする

ウドンタイボク……大きいわりに　コダカシイ……口やかまし
コンメデンコメンコ……小粒でも　コーズンゴツキチョル……厚着
ゴテーガイテー……体が痛い　ノウナッタ……死去
ベンケイナキドコロ……膝下表面　ユウナカッタ……亡くなった
ナタヌケガ……とっとつまらん　ショワヤク……世話役

アラシコ……屈強な人たち　ヨコウ……休む
アオビョウタン……青白いひ弱な　セリアウ……競争する
シミッタレ……けちに徹する　ヨダキー……しんきな
セリクリオーチ……せりまわして　キカユル……着替える
トワズ……冗談ばかり　ネスル……寝せる

シコースル……準備する　ドーキ……胸の鼓動
メンドシー……恥ずかしい　ヒブクロ……火傷の水泡
ヒロツク……物欲しがる　ハガウズク……歯の痛み
ダマシ……急に　ウツ……ずきずき痛み
ツランカワ……厚かましい　カイー……痒い

シビル……漏らす　チューカン……冗談言い
ハルル……腫れる　ホータン……頬
モドス……嘔吐　カヤッタ……倒れた
ヒリヒリ……ひどく痛む　ハタカル……股を開く
ムズムズ……むず痒い　シテーニ……したいのに

スクメチ……縮めて　マラ……男性性器
ピーント……いっぱいに　ハシモチョウシモ……始末悪い
キンタマ……睾丸　ヒューゲチョル……変わり者
スソ……女性性器　クワンバチ……食い損なう
アンベーガ……按配が　ソレデン……それでも

身体に関する方言の呼びかたやら　身体に関わる感情の呼びかた目で見る　心ん感情なんかを幾つか取り上げち　並べました。これらが生活ん中じ聞きようじゃ　笑いも誘い温かみもある。それらが長い間使われながら世代が代わり　今も受け継がれているのは　やっぱ人ん暮らしになくなるんが惜しい　そげな気持ちがあるけんじゃろう。方言ぬ使うな…一頃言いよったんが　こん頃ぁ『お国ん手形』とん言う。懐かしいもんじゃなあ。

踏朝是在踏

『新野津原音頭』

ハー西を向いてもよー　西を向いても東を見ても　アリャサ
　山と田圃と川ばかり　ソレヤートコセ　ヨーイヤナ

ハー山の宝をよー　山の宝を並べて見ようか　アリャサ
　水よし米よし人もよし　ソレヤートコセ　ヨーイヤナ

ハー七瀬河原にゃよー　七瀬河原にゃ菜の花咲けど　アリャサ
　湯布や鶴見は雪景色　ソレヤートコセ　ヨーイヤナ

ハー世代変われどよー　世代変われど昭和の御代にゃ　アリャサ
　大蔵大臣生んだ町　ソレヤートコセ　ヨーイヤナ

ハー肥後と岡とのよー　肥後と岡との交流の名残り　アリャサ
　今市村の石だたみ　ソレヤートコセ　ヨーイヤナ

『高原ふれあい祭り』

ハー野津原名代のひとつをあげりゃ
　今市高原ふれあい祭り　お駕籠が走る石だたみ
　ソレ　どんと行け行けどんと行け

ハー先を行くのはありゃウチの人
　早ぅ走らにゃ追いつかるるど　今夜たっぷり飲ませまし
　しょう
　ソレ　どんと行け行けどんと行け

はーあちらお神楽こちらは相撲
　遊戯スポーツさまざまあれど　分けて神楽は懐かしい

ソレどんと行け行けどんと行け

ハー神楽囃子の太鼓が響きゃ
　　鶴見高崎おったまがっち　雲ん合間にちょいと覗く
　　ソレ　どんと行け行けどんと行け

ハー遥か向こうに車を飛ばしゃ
　　見渡す限りトーキビ畑　袋買うのが入園料
　　ソレ　どんと行け行けどんと行け

ハー八百円じ大けな袋
　　押し込め押し込め何十本も　工面のいいやつ大儲け
　　ソレ　どんと行け行けどんと行け

『雨恋い音頭』

ええーええーええー
　　台風やろーと嫌うちいたが　ア　ヨイヨイ
　　雨のほしさにゃ叶わない　なぁそうじゃろうがえ
　　そうじゃろうがえ

ええーええーええー
　　待ちに待つたる台風様も　ア　ヨイヨイ
　　調子抜けした涙雨　なぁそうじゃろうがえ
　　そうじゃろうがえ

ええーええーええー
　　期待はずれの雨ではあるが　ア　ヨイヨイ
　　ちょいと潤う草も木も　なぁそうじゃろうがえ
　　なぁそうじゃろうがえ

ええーええーええー

こまった時にはつくづく思う　ア　ヨイヨイ

親のご恩と水の恩　なぁそうじゃろうがえ

そうじゃろうがえ

ええーええーええー

有難いぞえ野津原町は　ア　ヨイヨイ

山に抱かれた水の町　なぁそうじゃろうがえ

そうじゃろうがえ

『二の瀬の秋』

稲は頭を重く垂れ　見渡す限り黄金色

鳥追う銃の音凄く　犬は慌てて逃げまどう

茜の空にちぎれ雲　七瀬の川は水澄みて

岸辺を洗うせせらぎの　音は砕けて流れ行く

微かに聞こゆる寺の鐘　淵のあたりをとぼとぼと

笊を抱えて行く男　あれは二の瀬の釣り人か

小鳥の群れは巣に帰り　家路をたどる子供等は

夕焼け小焼けと唄う声　秋深みゆく二の瀬鶴

『農村後家一代』

配偶に逝かれて独りになれば　男はヤモメと言うけれど
女は後家と呼んでいる　古き時代の慣れ言葉

日本の国が君が代なれば　庶民の家は亭主の代
主亡き後にその家を　継がせる為に後家と云う

嫁ぐ日母が教えてくれた　おんな三界に家なしと
夫の家を守り抜く　そこが自分の死に場所と

明日は子供に何食わそうか　納屋に残した芋の粉も
使い果たした冬の夜　落とす涙のひとしずく

子等が伸びゆく一寸二寸　食うや食わずの暮らしでも
人の情けにゃ縋るまい　大和なでしこ後家一代

『残りの命』

若い時には老人などにゃ　なりたくないと思うたが
なってみなされ気楽なものよ　浮世離れた喜寿傘寿
儲けもんだよ残りの命

身柄一本ゆるりと暮らそ　世間騒がす強盗も
銭がありゃこそ狙いもするが　無くてよかった億の金
大事にしょう残りの命

しわが深こうなりや色まで褪せて　お化粧したとて何んになる
馬鹿にしゃんすな心は錦　割って見せようか胸のうち
強く生きよう残りの命

されど日暮れの冬空見れば　いつか心が淋しゅうなる
意地が沈んで本音が浮けば　所詮この世は独り旅
神に縋ろう残りの命。

『長　雨』

ハァーつゆの　つゆの雨には慣れてはいるが　アリャサ
　こうも降られちゃたまらない
　なったトマトは熟れずに腐る
　ソウジャローナ　ソウジャロナー

ハァー稲は　稲は根づいて喜びよるが　アリャサ
　おかか神経痛でうめきよる
　ニワシリゃ今日も止屋から出らぬ
　ソウジャローナ　ソウジャロナー

ハァーいつも　いつも明るく元気な親父　アリャサ
　どしゃぶる中をいそいそと
　田圃廻って水捌けしよる
　ソウジャローナ　ソウジャロナー

ハァー七瀬　七瀬河原の白サギたちは　アリャサ
　高い木の上なぜ止まる
　葉影に隠れりゃ良かろうものを
　ホントジャナー　ホントジャナー

ハァーこげー　こげー長ごう降りゃ鳥たちゃ　アリャサ
　着替えもないのに寒かろう
　ブルつと羽ばたきゃ良いのじゃろぅか
　ホンドジャナー　ホントジャナー。

『河童物語』

そん昔瀬戸ん淵ちゅんがあっち　子供たちゃいつもこん川じ遊ぅじょつた。谷ん流るる川はのう狭ぅじ深ぇ淵が　がいとーあつた。ここぅ村んしは『瀬戸ん淵』ち　呼うじょつた。こどもぁ夏になるとこん川じ遊ぶぬー大人は心配しち　『河童かる取らるれるき行くな』ち　言いよった。がなんぼ言うてん子供ぁ言うこつー聞かん。

ある年ん盆に子供たちがが　いつもんごつ川じ泳きよったんが一番こんめー半次郎はまぁ泳ぎきらんき　川ん石ん上に腰かけちじっと見よつた。するとやんがち一人りん子が　ずるずるっち引っぱるごつ足んふーかる　淵ん底んほうに入っちしもうた。他ん子は皆遊びいつちっち気がつかん　半次郎は早ぅ気がちーたき皆に言うたら　皆たまがっち淵ん方を見つめちょつたが　いつまで見ちょつてん上がっちこんき　子供たちゃわんわん泣きでーた。

そしち走っち家に言うち帰ったんじゃ。すると村中が大騒ぎぃなっちしもうた。半次郎ん親父が『皆聞いちくりー子供が河童に取られたぞ　瀬戸ん淵じゃ』ち　おらびながら　自分な先に走っち川んごつ行ったが　どくーどんげ走ったかウロタエチしもぅた。どくーどんげ捜そうか　村んしもおおごと駆けつけた。

隣んじいさまが荒縄ぉかかえち来た。そりゅう自分がん腰に巻きつくると　『俺が淵ん底に潜っち見る　底じ何かあったに合図するき』　そげー言うと　じいさん淵ぃ飛びくうだ。皆は真剣縄ぅひん握っち待つちょると　『びくっ』ち縄が引いたき　それーちばかりありあったけん力ぅふりしぼっちじ引き上げた。

上がっち来たぬー見ちだれんかれん肝ぅつぶした。そん腕に抱えちょつたなー子供ん死体じ゜ゃつた。半次郎ん従兄弟ん３つ年上ん良平じゃつた。きだてん優しい子じ半次郎を弟んごつ　ムドガリよ

ったき半次郎も大声じ泣いちしもうた。大人たちも『むげねーのぅむげねーのぅ』ち　皆涙ぅ流した。

そん淵は入口より底ん方が広ぅなっちょる。良平はそきー寝かされちょつたそうな。村かる一里ぐれー離れた所ぃ駐在所がある。そきー若ぇしをやると巡査が来ち　死体ぅ調べたが尻ん穴がポコンち　ほげちょつた。そん頃は河童が人間の尻かる手を　さしくーじ肝ぅ取るち言ょつたき　河童ん仕業ち決めくうだ。

駐在さんもそげー思うたごたる…子供ん遊びにゃあぶねーことがつきもんじゃが　大人が言うこちー素直に聞く事も　大事な事じゃあるめーか。

★　淵ちゅんが…淵というのが。がいとー…たくさん。取らるるき…取られるから。なんぼ…いくら。ごつ…ように。きらんき…できないから。やんがち…やがて。ふーかる…ほうから。たまがっち…びっくりして。こんき…来ないから。くりーください。おらぶ…叫ぶ。どくーどんげ…どこをどのように。ウロタエチ…慌ててしまって。ありあったけん…全ての力を。きだてん…性質のよい。そきー…そこに。ほげちょつた…穴があいていた。

それから何十年もたっち半次郎も　よぼよぼの年寄りになっちしもぅた。あんまり長生きしすぎたんか。自分の子供が５人もあったに皆死んでしもぅた。孫夫婦とんいのちきにゃ不自由はねーが　慣れん土地　慣れん暮らしにゃ半次郎にゃ　寂しいもんじゃつた。『わしゃ誰とん話も出来ん　話す事んねー　今頃良平が生きちょつたら　二人じあん山奥に行っち遊うだり。話たりするにのー。もぅいっぺんあん淵ぃ行っち見みてーもんじゃが。本当に河童がおったんじゃろうか……

あん頃は疑いもせんじゃつたが　本当にそげんこつがあるもんじゃろうか。いやいやそれでん尻ん穴がポカンとあいちょつた。そりゅう見たんなーこん目じゃき。話相手もねーし　する事もねーもんじゃーき昔ん事んじょう　半次郎は思いでーちょつた。懐かしいやら良平が恋しいやら。日が暮れち一層そげんことが　頭ぅよぎっちよる。が　いつんなかめーか眠っちしもぅた。り

『よい　そきー行くなー半次郎じゃねーか』　誰もおらんはずん、山道じ声がした。半次郎がたまがっち振り向くと　そきー良平が立つちょる。『お前ゃ良平じゃねーか　どしちこげん所りおるんか』『お前こすどしち　こげん所り来たんか』『俺はお前が河童に取られた瀬戸ん淵ぃ行きよるんじゃ…敵ぅ打つちゃろうち思うち　お前生きちょつたんか』『ははーつまらんこつー考ゆるな　お前が俺んこつー思うちくるるんは有難ぇが　俺りゃ今河童と仲良ぅ暮らしちよる　あん頃は河童ん世界も　まあ野暮じゃつたき人間の肝ぅ取つたりしたが　今はもうそげんこつーするやたー居らん』

生き物ぁみんな助け合うち生きちいく　損ぬせんごつのや俺たちん世界は解っち来た。人間な万物ん長ち気取ちょると　今でん野暮ん事ぅしよるじゃねーか。生き物ぅ殺しち食うたり　そんぐれーじゃねー殺しおうたりしよる。俺は娑婆におった時より今んほうがなんぼいいか知れん。

そげー言うたかち思うと良平は　いつんなかめーか消えちしもうた。『ぢいちゃんなまぁ寝ちょんのかえ』　孫ん声にひょいと目がさめた。あー今なー夢じゃつたんか　あたりはもう真っ暗じゃつたが　枕許ん孫ん顔がてんしょむしょ嬉しかった。良平に久しぶりに会うち懐かしいやら　心が通じちょつた事ん喜びもやっぱ　生きちょつちよかったち思う。

『丹生山』

丹生山善生寺んあった丹生山ぁ　府内ん丹生や荷小野《丹生野じゃなかろうか》なんかと共に　朱があっち女性ん身だしなみに　装うぅたんじゃあるめーか。そりゅう練る事かる練ヶ迫ち　誰言うとんのう名づけられたんじゃあるめーか。近所に栗林　柿の木　鍋なんかん地名にゃ　そん頃ん暮らしん豊かさが物語らるる。畑どころじ広い畑が多いんじ　穀物んアワ　大豆　なんか植えちょつた事やら　里芋ぅ取り入れたこたー食生活が　高度じゃつた証じゃろう。

直入文化が入り　のち大野文化　周りん天領文化や　肥後文化も巧みに取り入れた　生き方は素晴らしいもん。そん反面不作に備えち『イビラ餅…竹ん実』なんかも　食う方法がされちょつたのん　そん頃んリーダー格が博学でんあった　そりー皆が歩調合わする心ん　安堵感もあったかるじゃろう。

『寝ゴザ打ち』

天気続きにちょこっと雨でん降ろうもんなら　『こりゃーいいウロイヨコイ』ち　久しぶりいよこいにをする。『ちょいと寝ゴザでん打つか』　ごろりんと横になった親父。そりゅう又ちょうど聞くしも聞くしじゃつた。そん時通り合わせたゴザ買いん青年。こん頃ぁゴザが植えられち女子しん仕事ん　銭取りにゃ何よりん事じゃつき　暇さえありゃ『シューガチャン　シューガチャン』　リズム感のいい音が競争んごつどこん家でん　朝早ぅかる若ぇ娘ん受け持ち。嫁ご見に来るしも音ん調子じ『こりゃいー』ち　笑顔がこぼるるごたる。

『ゴザあるんならわけちくれんな』『……』　話が違うち解っちょるに親父が　暇つぶしにとりあいはじめた。『えーゴザえ』『ゴザ打ちしょるんじゃねーんな』『しよるで　はりこむな』『そ

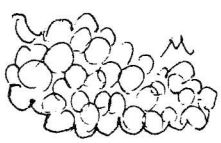
りゃーも一高ぅ買うで』『まぁ上がらんな』『おおきに　どんくれーあるじゃろうか　今日はいっこんも買えんもんじゃき』『そーな　そりゃむげねーこされ』　こんくれー言うと親父がむっくりと起けた。『あんなーわしかたにゃゴザねーんで　じゃけんどお前が折角話に乗ったき口ききしちゃるわな』『なにえ』ち　タマガッタけんど世話しちくるるち聞き　えーち安心した。

うかつん聞き違いが相手がいいしじゃつたき　よかったもんの一つ間違ゃおおごつーツクリタツル事じゃつた。『こん先ん角にゴザ打ちよるしがおるき　聞いたち行きなー別品がおるで』『おおきに』　別品ち聞いちちょこっと笑うのん若ぇきじゃろう。色気がこぼれち親父も朝かる気をゆうしちょつた。

★　あるめーか…あるのでは。そうとんのう…そうですとも。取り入れたこたー…それをいれていたのは。天領文化…幕府直轄の土地の文化。イビラ餅…イビラの球根を曝して作った餅。されちょつた…されていた。ウロイヨコイ…雨の為に休む。じゃつた…でした。こりゃーいい…これは大変よい。わけちくんな…分けてください。とりあい…相手する。しよるで…していますよ。

ゴザ…大分県なんかじ植えつけられちょつた　畳表に使われる物じ『青表』『ゴザ』　なんかち呼ぶ『七島い』草ん事。貧乏草とも言うち苦労んわりにゃ　銭にならん作物でんあった。が　農家副業としち取り入れた家じゃ　季節ごとん間ん収入になるき　苦労承知じ取り入れられち栽培　自家製品としち出荷しちょつた。が時にゃこげんふうに直接買い取りに来る　そげな風景も見られち若い娘ん縁談も。

農家ん厳しい生活ん糧にゃ苦労も仕方ねー夏ん暑い盛りに河原に干すと　夕立に会うと濡らしたらオオゴツ。取り込みに大わらわじゃつた。



『大水で引き上げた菊池軍』

川の水は日ごろぁおとなしいけんど　さぁちゅう時にゃけっくしゃおじいーごつ　なっち流るるもんじゃ。戦国時代ん事じゃつた。そん頃ん豊後武士団なとてん強ぅじ　勇名は九州にひびき渡っちょつた。一の瀬ん渡しん河川の水も日ごろでん　がいとー流れちょつたごたる。

ある時ぃ菊池軍が攻めち一の瀬まじ　辿りちーたがナンサマ水が多ぅじ　足止めされちしもぅた。早駆けじゃつたもんじゃき　兵糧がまにあわんじ　そいじゃきち渡りゃ一遍ギシ　ネライウチされちしまう。そげんこつー考えよると『どげーしたもんか』ち　知恵ぅ絞ったがとうとう引き上げちしもぅた。

そん兵力やら目的ぁ解らんじゃつたが　さっと引き上ぐるあたりゃ　そん頃ん戦いんあり方にも謎めいたもんが　あったんじゃあるめーか。大水ぁ時にゃ家屋も山も流す　大被害も作りたつるもん。一の瀬川原　天神面なんかはゆう被害におーちょつた。戦わんまま引き上げたんも何んか解るごたる気もする。

一の瀬渡したー七瀬川ん内でん　一番始めん瀬のこと。これかる七つん瀬を　あんげこんげ渡っち府内に出たもんじゃ。

★　さぁちゅう時…いざと言う時。けっくしゃ…わりあいと。おじいごつ…おそろしいように。がいとー…たくさんに。ナンサマ…なにぶんにも。そうじゃぁきち…それだからといっても。ギシ…かぎりに。どげーしたもんか…どうしたものかと。あるめーか…じゃないでしょうか。おーちょつた…あっていた。でん…でも。あんげこんげ…あっちこっちと。天神面…当時天神様をまつる神社があったが　大水ん被害に何回もあったと記録されちょる。

そん天神面たーどげな所じゃつたんか…一の瀬川原を中心に川ん水もおゆーじ　天気が続きゃチッター水も減っち　川原が広まっち洗濯物ぅ干すしも多かった。天神様をまつりそれ以外ん建物んがなかったことかるここぅ『天神面』ち　言うごつなった。小高ぇー愛宕山かるのび　権現かるん背伸びもこきー集まっちょる。

大水になりゃ牟田まじ広がり　あとに出来る寺町ん北側まじ川原になっちしまう。赤坂川《後ん七瀬川》はこげんふうに　人ん集まれるる広い場所でんあった。水が人間に取っちゃ大事なもんじゃが　ヒトツ間違うたもんならそれこす　大事ぅ作りたつる力もあっち　不思議なもんじゃつたごたる。

『イモリ　ヤモリ　コウモリ』

人間な一人じゃ生きちいけん動物でんある。近所んし　トギ　いけうち　草木かる太陽　水ち巾ひりー。イモリ…周りゅう。ヤモリ…家を。コウモリ…川を守っちくるる大事な動物ち　言いよった。こげなんを捕まえち食うなー人間の害虫じあり　生活やら病気やらん元ぅ絶っちくるる　欠かせん友達でんある。

そげん考えかとーするのん　自然の中じやっぱ人間な弱い動物じあるからじゃろう。助け会う事が自分も守られちょる事でんあり　相手にゆうする事が自分も世話になる　助け会いでんある。世の中じ役にたたんもんな何一つねーが　それがどんくれー何ん役になっちょるかが　問題でんあるんじゃろう。

★　こきー…ここに。こげんふーに…こんなふーに、このように。それこす…それこそ。トギ…ともだち。いけうち…親親戚、身内。かんがえかとーするのん…考えかたをするのも。ゆうする…よくする。どんくれー…どのくらい。なっちょるかが…なっているかが。

『能登かぐら』

寛永２年《１６２５》んの頃野津原に　京都かる神官と神楽師が入っち来た。そん時ん持ちこまれた能登神楽は　京ん雅優雅さを保った舞い。大神にゃ神楽唄があっち口うつしに　継承されちょったが若い人ん不足　世話するしがおらんごつなった　そげなことじ絶えちょつた。

そん神楽ん一部が数年前かる復活しち　舞われちょるが九州ん勇壮さたー又でーぶん違う。４人舞いを１９９３年開催ん『ふるさとまつり』じ　披露奉納されよった。大和かる入っちもう３８０年ぐれーたつが　そんリズムに先人たちぁどげな　思いじ聞き見ちょることじゃろう。

神楽師ん人たちん仕事もそん頃ぁ　決まっちょつち代々受け継がれ　一定期間じ異動したごたる。平和を求むる地方ん人たちん気持ぅ　大事にした行政ん仕組みがこげな形じ　作られちょつた夢も多い頃じゃつたんか。地元んしたちとん交流にゃ言葉　習慣なんかも馴染むに苦労も多かったじゃろう。

『白山権現』

和銅年間《７０８＝１５》にぁ全国に疫病が流行しち《外国かる入ったごたる…免疫性がなかったき》　被害者がてんしょむしょぅ多かった。そん頃ん野津原でん人家ん密集した　権現なんかにゃもぅ犠牲者が多かったごたる。神仏に祈とうするなんか　こん頃にゃ寺院も６寺あったが　医療施設んねーもんじゃき人ん心は気持ちは　それが唯一ん頼りでんあった。

和銅３年《７１０》にゃ　藤原慈成が丹波ん国かる派遣されちここにハナカルあった神社ぅ『白山権現』ち呼ぶごつなった。地区も又権現村ち言うごつなった。権現号を持つ神宮寺とん言う。

今も残っちょる伽藍鶴ん地名なんかも　当時ん関わりがあったんじゃなかろうか。疫病ん流行じ厄よけ　祈願　祈とう　そんほかん思い願いん相談も多ゅうじ　賑わいもある中心地じゃつたんじゃろう。丹波かる派遣された神職は任期の切れる直前に　足を痛めてんの帰国が心配されたごたるが　そんまま永住ん取扱いになっち　異国が故郷になったごたる。

やんがち野津原ん古町が広がり　地蔵谷が埋められち寺町に続いち『権現村寺町』ちなり　次第に人家がふえち人も多ゅうなった。古町が東に広がり恵良まじ続き　寺町が西に広がり町ん形が整うごつなった。古市にゃ『白山権現んお旅所』　『平野祇園神社んお旅所』も出来ち　定期的に祭りがあり露天も並び　賑わったごたる。

明治１２年２月１８日官許じ野津原神社に　合祀したき今までん『郷社野津原神社』ん　夏祭りん大山車ん引き立てなんかは　祇園祭りん名残りでんある。そりゅう位置づけたんも肥後領時代かるん　豪族ん力量やら故郷ぅ思う気持ちん　集大成じゃろうちゆう解る。

★　神楽唄…神楽に合わせて歌う唄。おらんごつなっち…いなくなってしまう。そげなことじ…そんなことで。でーぶん…だいぶ。どげな…どんな。こげな…こんな。
しち…して。てんしょむしょ…むやみやたらに。ねーもんじゃき…ないものですから。ハナカル…はじめから。やんがち…やがて。

あげな話こげな話題

★　孫とん買い物に　笑いが止まらん知恵ん発達

スーパーに買い物んに入った　兄がいつもん母親とん買い物ぐせじ　安物捜しじ遠慮しながる袋に入れよる。知恵ん働く弟んやたーすかさず　『今日はじいちゃんが買うんじゃき　高ぇもんでいいんど』ち　じゃんじゃん袋に詰めくうだ。日ごろかるん母親ん経済通を　こん時ち鬱憤ぬはらしたごたる。

笑いごっちゃねー、けんど　現実味んある光景。

★　面白いついでに駅ん名前にも　使い方じユニークにもなる。そりゅー上手に使うち綴っちみた。て

三重ち解っちょる野矢　あんしゃ久留米じ森しよった。杵築ち言うたり日出いち言うたり。牧かる戻った兄やんが　恵良そうに俺でん子供ん頃にゃ下の江ゃ。

小森江ちとぼくりゃ　姶良しゅうもねーが　阿蘇んじょる訳でんねー。狩生ぅ戻さんと　佐志生かち言われてん　庄内じゃ涙ぅ長洲こちーなる。長井は無用じゃ　鶴崎千年亀川万年長生きしち椎田しと　宇佐はらし　それでん夜明けにゃ　ちゃんと立野や。

※　駅名いくつ解ったかえ　九州ん特に大分周辺の駅名です。

★　家ん軒先ん支え木にゃ　ゆう彫り物んがしちゃるが　それにゃ渦巻　竜　雲なんかが多いごたる。火災かる家ぅ守る心ん願い　祈りがこめられちょる。いずれん彫り物んも水に関わるもんじ　水を呼ぶ事じ火災の発生に　防火や消火を念じた人間本来ん　欲望祈願がこげな所いも　現れちょる。

子供ん頃にゃ言葉をはそーじ　しゃべくりまわった思いでがあった。今じ言う『はやりことば』かん知れん。昭和ん始め諏訪ん学校ん頃。

そのさげんこつ　ゆのさってん　このさまるき　やのさめちょけ。そのさげんこつー　ゆのさってん　やのさめんられんき　まのさつちょけ。そのさげんうち　いのさげん　ちのさえんが　わのさいちくのさるわい。

★　そのような事を言うても困るから　やめておきなさい。そう言うてもすぐには　やめられないので　そのうち　いい知恵も湧いてくるでしょう。

そこげけんここつう　ゆくうな。そこげけんこつー　ゆくうたてけん　おこまかいどうが　ここまかるど。そこんうくち　いこんげちこんえけん　ちこんえけんも　わかいちけん　くかいるじゃろう。

★　そんな事を言うな　そんなことを言うても　お前たちが困るど。そんうち　言うちゃいけん　いい知恵も　浮かんでくるじゃろう。

子供ん遊びん中にゃ　こげなふうに誠ち　妙ちくりんに　それじいち面白いおかしく　ユーモアもあっち。やりとりん巧妙さが目に浮かんじ来る。

子供は時としちヒョカント面白い言葉を　突然大人顔負けに言うもんじゃ。親父と孫んやりとりかる……５つ指ん靴下を見た孫が言うた。『そげなもんぬ履きよるき　ツツカケぅ履かれんごつなったんじゃろう』…鼻緒がついた以前に足があったなー確かじゃが。

★　弁天様んお使いは白蛇ち言われちょる。蛇にゃ金ん縁起もあっちお蔭にありつきたい。けんど苦労も努力もせんじょつち　儲かる　金にありつく　そりゃちょいと虫がよすぐる。
観音様はあらゆる人間の苦難ぬ　聞いち助けちくるるち言うて。それもご利益んじょう宛にしたんじゃ　観音様じゃつて忙しいち嫌われるじゃろう。
不動様は火炎を背に人間の悪難かる　人を救うちくるるち言うけんど　それもそん人が真剣に頑張っち　挙句に頼む事による厄よけじあっち　遊びひゅーげちょつち頼む事んじょう　そりゃちょいと虫がよすぐるんじゃねーな。

家ん観音様でん自分の都合いい時んじょう　使うなんか調子がよすぐるんじゃねー。相手ん事ぅもちった考えち『今晩ないいな』ち　伺いをたつるぐれーん気くばりんも　いいごたるなー。ちょいと覗いて見りゃやっぱ　家ん観音様ぁ家庭ん家族ん親父ん守り神かんしれんなぁ。しゃんと毎日感謝しち拝んじょきなーえ。

★　大事なもんぬ人に知られんごつ　どきか埋めちょこーち思うち見回したら　いいこちー烏が木の枝ぇとまっちょる。早ぅせんと見つかったら大事。ばたばた埋めち知らん顔じ　ふーち息うしち帰いった。何日かしちダマシ思いでーち　掘ろぅち思うち木の側ぇ来たら　『ありゃこりゃおおごつ』　それもそんはず烏はいつまでんヒトトコリにゃ止まっちょらん。ありりゃと…どこか解らんごつなっちしもぅた。

多すぎるき小分けにしちコソコソなおした。それまじゃよかったんじゃが　あんまり幾つにん分けたもんじゃきも　さあ捜す時ぃなっち忘れち解らんごつなつた。欲張りしよるとコゲンコチーナルち　反省したんじゃがもう後ん祭り。欲はってん死んだ時にゃ持っちいかんに　もうなえ……。

『方言生活と数とん関わり』

人間の生活にゃ数が関わっちくるが　そげなんを集めちみると又これも　面白いもんじ幾つか拾っち綴った。

野菜　イチジク　ニージン《ニンジン》　サンショー　シイタケ　ゴボー　麦飯　ナスビ《茄子》　ハッタケ　黒豆　トンガラシ《トーガラシ》

人間　いじわりー《意地悪》　にがぐち　さらゆる《蒸し返す》　しみったれ《けち》　ごくどう《嫌われ者》　ろくでなし《箸にも調子にもかからぬ》　なりたがる《出しゃばり》　はなつまみ《嫌われ者》　くたばる《倒れる》　とほーもねえ《とんでまない》

女性　色気があっち　ニコニコしよる《している》　三度ん飯ん　しこーでん《支度準備でも》　ご馳走揃えち《揃えて》　婿じょう《婿さん》思い　習わし上手《躾のよい》に　八方美人　苦労幸せに　充実暮らし。

入湯　火おこし　風呂たき《湯わかし》　水かたげ《担ぐ》　よばれ湯《貰い風呂》　極楽　迎え水《水を追加》　長湯　休まる《ゆっくり出来て》　黒炭《薪の燃えた残り炭》　じゅうのう《燃えた残り炭をすくう運ぶう道具》

色気　色みゅー《色目》　握りしこ《しっかり握り》　させちゃらん《させてあげない》　しこーしち《準備して》　こしらゆる《こしらえ　準備》　むげながる《可愛いがる　愛する》　内緒事《秘密》　やうち《近親者　身内》　口説きおどり《口説いて意のままに行動　嬉しさ表現》　どんこんねー《この上もなく》

周辺　いのちき《生活》　にがおるる《一安心する》　さかしい《元気》　よだつ《準備する》　こざかしい《生意気な》　むこじょう《婿》　なかだち《媒酌》　屋敷まわり《家の周辺》　くみうち《隣近所》　祝言《結婚式》

作業　いいあんべー《都合よく》　西日嫌い《日照りが厳しい》　三度びゆー《三食がつく仕事》　しこたま儲かる《予想以上の利益》　五月ながせ《梅雨》　迎え水豊作《水が少ないくらいがたまりがよい》　苗半作《苗が出来れば半分は完成》　やねがえシモト《屋根替えに使う竹》　鍬ん錆びぁ仕事よりひじい《泥錆びで鍬が痛む》　トーミさべはゆうしちょけ《選別が一番大切》

子供　いっけんとび《片足あげ飛び》　にらめっこ《睨み比べ》　さかとんぼ《逆さ回転》　じんやとり《相手の陣を取り合う遊び》　ごむじゅう《ゴムの力利用鉄砲》　むこうづら《額面》　なわとび《縄を利用した遊び》　はねつき《羽子板でつきあげる》　くさきりかご《草を切って入れる籠》　しいちょる《好いている》

行事　いのこ《亥の子廻り》　ふどうまつり《不動様の祭り》　さとかぐら《鎮守の神に奉納》　しろーとえんげい《素人狂言芝居》　五月節句《端午の節句》　迎え火《盆行事》　七夕《短冊》　八月まつり《夏祭り》　くどきおどり《口説いて踊る》　じゅうごや《名月まつり》

気象　経済　環境　いいあんべー《本当に都合よく》　にしむくさむらい《２４６９　１１月の意味》　さざめはこさく《小作米や利息》　しるしい《雨にぬれて嫌な感触》　５０銭あぶん目ん玉《昔の方言》　むしる《取り除く》　ながせ《梅雨の季節》　やすもんがい《貧すりゃどんする》　くゆる《壊

れる〉　じょうのう〈税金を納める〉

★　数字は生活にかかせねぇもん　じゃが案外忘れられちょるんが普通　一般的じゃろうち並べちみました。こん元になったなー

一くり　二んじん　三んしょう　四いたけ　五んぼう　六うそく　七くり　八たけ　九ねんぼ　十んがらし

こげな言葉遊びぅいつん頃かるか　覚え〈習ぅた訳でんねーにいつんなかめーか〉　使いよった。そしちほかんしが覚えち又ほかんしが使う。こんだ子供が平気じ生じ食いよったもんぬ。

★　いちご　ぐみ　くり　かんからんみ〈サルトリイバラ〉　つばな〈ちがや〉　あまね〈ちがやん根〉　ぎしぎし〈スイバ〉　さとがら〈イタドリ〉　ちちぼ〈ちちぶ〉　うめ　びわ　もも　なつめ　みかん　柿　がらめ〈イヌブドー〉　なし　はらんきょー〈スモモ〉　あけぼ〈アケビ〉　てんぽなし

★　面白い言葉遊びん中にあった　『そのさげんこつー』ん　『のさ』が入ったもんは　平気じ解らんまま使いよったが　都会ん東京あたりん『だからさ』ん　『さ』が　ここんとこりー来たんじゃあるめーか。『の』は地方ん言葉じ『さ』は　都会んそれちすりゃ　参勤交代んみやげ言葉じ面白いことじゃ。

★　人間の健康にゃ自分の努力が　大けな役割も果たしちょる。ちょこっと聞いた見た話じゃが……長寿ん座右銘。

少肉多菜　少糖多果　少衣多浴　少煩多眠　少言多行　少塩多酢
少食多噛　少車多歩　少憂多笑　少過去振返多未来創。

ほんな町んしが来ち話しよったんぬ　聞いたところこげんこつー話しよった。

今市ん『お茶屋』が出来たんが　１５２４年頃じ『そば接待』は１６０２年頃ち言う。まあ参勤交代ん制度化によっち　肥後領ん加藤清正ん行列が通るこちーなっち　大大名にゃそれなりん心くばり　大事にしちょきゃ損にゃならん　世渡り上手ん好誼ん手法じったんじゃろう。

『ケンチン汁』もあったが　野津原にゃ同じ肥後でん　加藤時代ん『美濃調理方式』が　通用しちょる。それたけ清正ん気持ち心が根強ぅ　残っちょるんか当時ん豪族ん威力があるんか。後じ細川ん『若狭調理方式』が　入ったが根強い『美濃方式』が　今でん残っちょるち言う。

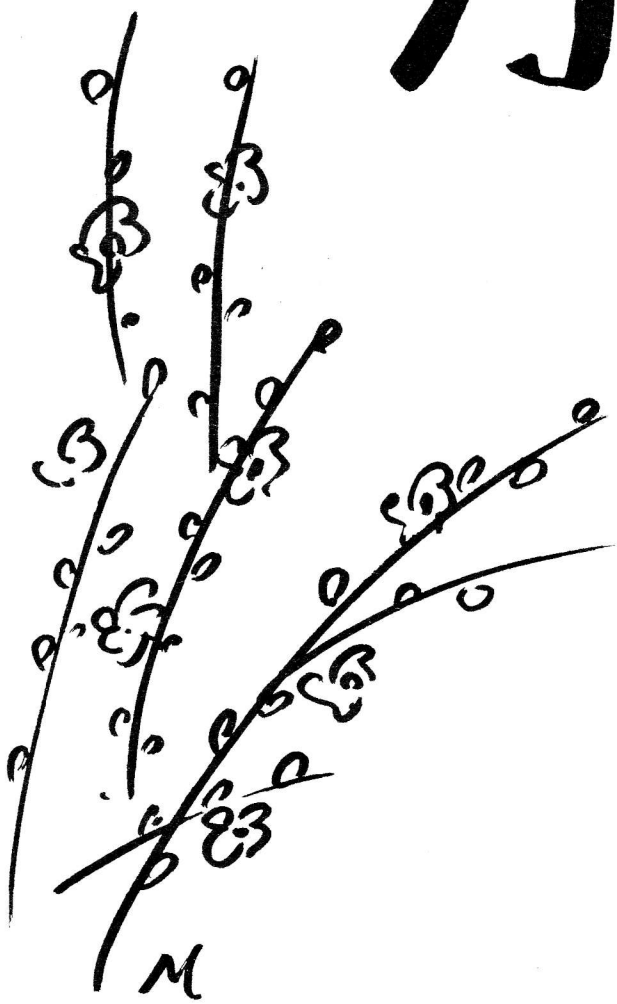
『そば接待』にゃ特に女ごしん《女性》足袋ん着用も許されちどんくれー気を使いよったかが解る。そん代わりにゃ応分の寄付や心づけも　あったごたるきまぁお互いに　持ちつもたれつの世相じゃつたんじゃろう。領主ん岡藩の道中はここかる別府に　肥後藩な鶴崎に出ち海路大阪かる江戸に。

★　街角んひとりごと

街角に赤ぇポストが立っちょる。昨日も今日も雨にん風にん寒い雪ん日も　キラキラ日照りん夏ん日も　じっと立つちょる。ポトン…入れた手紙が気持ちいい音ぅたてた。背伸びした子供がハガキゥ入れた。仲良しぃ出すんか　お年寄りが腰ぅ延ばしち入れた。

ポストぁ心ぅ気持ちぅ伝えちくるる　大事な仕事ぅ黙々としちくるる。今日もそしち明日も。

心に残る言葉



『もらい湯』

『いっぱい湯をけーちくれなー』『今あいちょるで入んなー』隣んしが呼んじくれたき　もらい湯に来る。『早かったじゃねーなどこまじ』『たいした事じゃねーきすぐへモドッタンで』　やっぱ自分かたが一番いいごたる。折角招待れたモンジャキち　仕方ねぇカッスルゴタル気持ちじ　行ったもんの土産だけヒンニギルと　忙しゅう帰っち来たんじゃろう。

嫁に行った娘も親ん気持ちゃゆう解っちょる…よそ行きが苦手なヒミンヅラん父親。来ちくれただけでん顔がたったち　チッタさびしかったけんど見送る。オカチャンじったんなら笑顔くずしち　コロゲマワルごつ話がはずーだじゃろうにち　辻じ見送っち一人笑いしちしもぅた。それでん親はいいもんチッタ腰も曲がったけんど。

『カンなどげーな　ちっとクビューカ』『いいで　極楽極楽』ダッタンカ居眠りするごたる気持ちぃなっち　隣近所んしん優しさにチョコット　目頭ぅ熱ぅしちしもぅた。『おごっそんなりましたいい湯じゃつた』『まぁ茶でん……』　遠慮ねーき上がり端ぇ腰かくると　手拭いぉ頭ぇ乗せた格好がいい。『年ぅ取ると湯が一番ご馳走じゃなえ』

送っちくれた娘ん姿ぅひょいと思いでーち　『けっくしゃ頑張りよるごたったき』『そりゃよかったなー』　隣んしも気があてちーたか　笑い顔が皆に伝わっち。『どげーなもう孫が』『どうでんそげなごたるが　わしも聞かんじゃつたが』『チャーラムゲネコサレ』『ワルカッタジャロウカ』『そげんこたーねーが』。父親にゃ言えんじゃつたんか…嬉しさそんな素振りもドンカンな歯がゆさ。

歯はいいんか漬け物んぬ噛む音が響く　歯も目もよけりゃアレモ元気じゃろう。流るる汗ぅふくと茶を一気にぬーだ。

『母なればこそ』

『草きり行っちくるき遊びよんなーえ』『チーチイク』　子供が来るとアマユルき草きりにヒマガイル。それでん来るち言や置いちくんもムゲネェ。畦道ぅ行くともうツバナが出ちょる　ころげまわりそうに取り剥いち食う子供。『ハラヒトツになるまじ食いよんなぁ』　親はそきー籠ぅおくと草きりぅ始めた。

『そきーおんなーえ下まじおるるき』　下ん畦ん草が多いきソッチにまわった。でーぶん待たせたちカルウチ上ん畦に上がったら　もう畦にナンカカッチ眠っちょる。『こげんとこりーニイッチまぁ』　起こすのんムゲネェキ母親も腰ぅ下ろした。日ざしが気持ちいい　朝露に濡れた足先ん白い指が苦労ぅ感じる。

きた頃や仕事にも慣れんきヒジーわりにゃ仕事もドンナジャッたけんど　こん頃にゃチッター慣れち上手にもなった。白いなーち評判じゃつた肌も土色ぃ染まったのん　百姓が性におーチョルんかち　自分に言い聞かせちょる。あきらめもあるんじゃろうが。子が目をサメータ…起けたな　帰るでツバナ　ウマカッタナ』『……』マァ目がさめんごたるが籠があるき　オンボデケンな解っちょるごたる。

『ヒモジュウナッタ』　家に帰ったらもう甘ゆるに　母親なりゃこす上肌をあけち子供が　むさぼる乳ぅサイデータ。子供がスワブル母乳は母子の愛情ん証か　親ん味わいを満喫する時苦労が帳消しさるるごたる。病気じドゲーシュウカち気をもむ　ユーナラケータそん時ん喜び嬉しさ。母なればこそ味わえる特権かんしれん。

こん子供が大きぅなっちどげん人間になるんか　そげんこたー天に任せちとにかくサカシイ子に。若い母親ん肌ん仄かん匂いが朝草ん　露とうまいぐあいに調和しちょる。

『お膳箱』

娘が嫁入りでん出来る年頃になっち　朝ん飯あとん膳箱ぅ片付けゅうすると　物思いにふけっちくるのんゆう解る。よそん家ん嫁ごになっち膳箱がどげな形じ　自分がん茶碗がどきー入れらるるか。ハブトかやしち片付けせんでん　それもよかったけんど嫁になりゃ　そげんわけにもいかん。そげなこつー思うとため息も出る。

『牛見きたで』　そげな声がするとタマガッチしまう。モドカシたんか隣ん　おじゃんが顔ぅ出えち笑いよる。『うもータマガル』『お前もタマガッタカ　ほんなショワネーの』　試したんか気にしちくるるんもムゲネーキジャロウ。気質がいいき誰にでんやりとうねー　親よりも心配しちくるるき。

仕事も出来るし優しいもんじゃき　若ぇしが狙うちょるけんど　帯に短かしタスキにゃ長ぇ　縁はそげんことじ旨くいかんもんじゃ。『チットークンナ』『何ぅや俺ん息子か』『チューレンヌ言う　もう好かん』『何やもいっぺん言ぅちみよ』『知らんで　シソンハじゃ……取るで』　遠慮もねーき畑に入っちムシッタ。

そげな格好がムゲネーゴツ愛らしいのん　コンメー時かる子んごつ知っちょるきじゃろぅ。尻も太っち色気も出たき早ぅ決まらにゃ何か　落ち着かんのや　ち親父に話したら『アンジョユウ頼むで。皆がいい方向にち見ちくるる娘ん幸せに　親はどんくれー嬉しい事か。

『姉やんが嫁ごに行ったらアンキじゃがのー』　煙たがったがそん嫁ごに行くこちーなると　チョビット寂しいんか『悪かったらすぐ帰れや』　こんくれー言うとツージ遊び行った。弟ん気持ちが痛ぇほず解るごたる。洗い髪ん乙女らしい香りが部屋に流れちょるんも　何かもの侘しいがチットクンナーの幸せ　そげな人生じあっち欲しいもんじゃ。膳箱はいつまでん空けちやっちょきてーが……

『アワ飯塩シャケ』

『今朝はうまかったけんど昼ぃなりゃ　喉ぅコサギマワッチ通るのぅ』　テーゲー好きじゃにやっぱ昼にゃ　ポロポロになっちもう食いにきー。でん好きちゃショウガネー真剣食いよる。親父ぅ横目じオヒツにとった麦飯ぅ　ほかんしゃ食うんが日課。もう暑い日が何日も続いち汗ぅかくと　塩シャケがことんほかウメエ。

『どきたんな』　汗ぅふきふき上がり口ぃずり上がると　『ちょいとヨコワセナー』『コッチくりゃいい涼しいで』『飯ぅ食いよんにここじいいわな』『遠慮するごたるもんな食いよらんに』『てぶらで』『いいこと　そげんこたーいいき』　気心ん知った者どうし遠慮はねーけんど　やっぱ礼儀はわきまえちょる。

『にがおれたな　もうすんだんじゃろう』『えーとこぎつけた』『好きじゃなー塩もんぬ　ゆうあかんこちー』『ふんとで三度三度いいち言うもんじゃき』『だっちょる時ぁほーらいいんで』『そりゃまーな』　相づち打ったがチッタ呆れもしちょつた。汗が流るる時ぁ塩気がいいけんど……むげねーごともある。

『毎晩はりこむんじゃろう』『けつごろう言うな　若えもんの前じ』『いいじゃねーな　若えしゃ馬力いいなー当たり前じゃ』　若嫁が顔ぅ赤ぅしちうつみーた。そげな話もダリが取るる薬でんある。今年も稲がいいごたるき楽しみもあるが　百姓はばくちといっしょ　しまいまじ解らんきのー。

だつてんヒヅーデンはりくーじ働く　そげな宿命じゃが物ぅ作る楽しみぁ又　他にねー喜びもあっちこん年まじ　続けち来たち二人じ顔合わせち　吹き出ーちしもぅた。若い嫁ごは
それがヨッポズおかしかったんか　笑う笑顔がや
っぱ若えきエエラシイモンじゃつた。

あとがき

平成４年から調査収拾をはじめて１２年あまり　この間多くの皆様のご支援ご協力をいただき　３セット　続編№５までと　やさしいガイド２冊の　合計１０冊目をここに完成して　ご愛読いただくことになりました。

皆様のご愛読によって　素人集団が取り組んだ『野津原方言』も　生活用語であった古きよき時代の　延長として編集している『野津原方言単語１２０００』の　冊子２冊も　平成１５年春に発行を予定しています。

これによって野津原の無形文化財でもある　使い生活に生かされた『方言』の　収集活動調査の幕を閉じる事にいたします。

多くの皆様をはじめの企業　商社の　ご支援ご協力に感謝し心より深甚なる敬意を表しまして　あとがきといたします。誠にありがとうございました。

平成１４年８月吉日

野津原方言調査会